

第二十回 衆議院議事速記録第二號

明治三十七年三月二十三日(水曜日)午後一時八分開議

議事日程 第一號 明治三十七年三月二十三日

午後一時開議

第一 臨時事件費支辨ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第三 陸海軍ニ屬スル臨時事件費特別會計法案(政府提出) 第一讀會

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第五 非常特別稅法案(政府提出) 第一讀會

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第七 醫藥用工業用酒精稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第九 明治三十四年法律第十號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第十一 沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第十三 醬油稅則中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第十五 自家用醬油稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第十七 關稅定率法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第十九 輸入原料砂糖稅法廢止法律案(政府提出) 第一讀會

第二十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第二十一 問接國稅犯則者處分法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第二十三 地租徵收ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第二十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第二十五 沖繩縣滯納舊租延納法案(政府提出) 第一讀會

第二十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第二十七 煙草專賣法案(政府提出) 第一讀會

第二十八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第二十九 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第三十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第三十一 渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律案(政府提出) 第一讀會

第三十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第三十三 記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第三十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第三十五 貯蓄勸業債券法案(政府提出) 第一讀會

第三十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第三十七 明治三十六年勅令第二百九十一號(承諾ヲ求ムル件)(政府提出) 第一讀會

第三十八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第三十九 防禦海面令(承諾ヲ求ムル件)(政府提出) 第一讀會

第四十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第四十一 明治三十七年勅令第十九號(承諾ヲ求ムル件)(政府提出) 第一讀會

第四十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第四十三 臨時事件費豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(政府提出) 第一讀會

第四十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第四十五 決議案(福島宜三外三名提出) 第一讀會

第四十六 決議案(原敬外二名提出) 第一讀會

○議長(松田正久君) 開會致シマス、諸君、去ヌル二十日本院ニ於テ議決ニナリマシタル奉答表、翌二十一日午前十一時參内ヲ致シテ、鳳凰ノ間ニ於テ拜謁ヲ仰付ケラレ、之ヲ捧呈致シマシタルニ、勅語ヲ賜ハリマシタ、今其覺書ヲ讀上ケマス、敬意ヲ表スルタメ起立ヲ願ヒマス

(議員一同起立)

朕衆議院ノ深厚ナル敬禮ヲ嘉ス

是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

委員長及理事左ノ通當選セラレタリ

豫算委員長 大岡 育造君

同 理事 伊藤 德太郎君

決算委員長 首藤 陸三君

同 理事 飯島 省三郎君

同 理事 由布 惟義君

懲罰委員長 村松 愛藏君

同 理事 木村 格之輔君

請願委員長 栗塚 省吾君

同 理事 安念次左衛門君

同 理事 北島 具雄君

櫻井 駿君

同 理事 神崎 東藏君

同 理事 竹村 良貞君

同 理事 吉植 庄一郎君

同 理事 久保田 與四郎君

同 理事 橫井 甚四郎君

同 理事 渡邊 修君

政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セラレタリ

臨時事件費支辨ニ關スル法律案

陸海軍ニ關スル臨時事件費特別會計法案

非常特別稅法案

醫藥用工業用酒精稅法中改正法律案

明治三十四年法律第十號中改正法律案

沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案

醬油稅則中改正法律案

自家用醬油稅法中改正法律案

關稅定率法中改正法律案

輸入原料砂糖稅法廢止法律案

間接國稅犯則者處分法中改正法律案

地租徵收ニ關スル法律案

沖繩縣滯納舊租延納法案

煙草專賣法案

臺灣事業公債法中改正法律案

渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律案

記名ノ國債ノ目的トスル質權ノ設定ニ關スル法律案

貯蓄勸業債券法案

臨時軍事費豫算案

明治三十七年度歲入歳出總豫算追加案

明治三十七年度特別會計歳入歳出豫算追加案

明治三十六年勅令第二百九十一號(承諾ヲ求ムル件)

防禦海面令(承諾ヲ求ムル件)

明治三十七年勅令第十九號(承諾ヲ求ムル件)

臨時事件費豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

武藤金吉君ヨリ軍國多事ノ時ニ當テ多害ノ鑛業ト官林濫伐ヲ禁止セサル件ニ關スル質問主意書ヲ提出セリ

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

軍國多事ノ時ニ當テ多害ノ鑛業ト官林濫伐ヲ禁止セサルニ付質問書

右成規ニ據リ提出候也

明治三十七年三月二十三日

提出者 武藤 金吉

贊成者 島田 三郎

外三十名

軍國多事ノ時ニ當テ多害ノ鑛業ト官林濫伐ヲ禁止セサルニ付質問書

一群馬縣利根郡品川水源ノ官林ノ中千貳百餘町歩ノ立木ヲ政府ハ古河市兵衛ニ拂下ケ其代金貳千餘圓ヲ國庫ニ收納シタルト政府ハ會テ衆議院ニ於ケル質問ニ對シ答辯シタルニシテ其伐採セル材木ヲ栃木縣上都賀郡足尾銅山ニ運搬セ

ン爲メ道路、橋梁、鐵柵等ノ開築架設ノ必要ヲ感シ古河ハ政府ト結託シ上都賀郡松木村人民ニ金四萬圓ヲ與ヘテ立退カシメタル上右工事費ニ拾萬圓内外ヲ消費シタルト云フ政府ト古河ト此工事費ニ支出セシ一切ノ金額幾何ナルヤ、松木村全村ノ宅地田畑山林原野ノ反別ハ幾何ナルヤ、同村ノ人口及戶數ハ幾何

ナリシヤ、同村ノ人民ハ古來何業ヲ以テ生活セシヤ、右拂下ケ反別ハ果シテ千貳百町歩ナリシヤ、其立木ハ植付以來凡ソ幾年ヲ經過セシモノナルヤ及ヒ其伐採後直チニ苗樹ヲ植付ケシヤ

一日清戰爭前後ニ於テ政府ハ足尾銅山ノ周圍數里間ノ官林七千六百餘町歩ヲ輪伐法ニ依リテ古河ニ拂下ケタルニ古河ハ其レ以外壹萬餘町歩ヲ濫伐セシハ事實ニシテ之カ爲メ明治二十九年ノ大洪水トナリ鑛毒被害地ヲ増大セシメ去ル明治二十五年ニ於テ被害地千六百餘町歩ナリシモノ其後僅ニ三年ニシテ止ムヲ得ス免租セシ土地ノミニテ貳萬四千六百町歩ノ多キニ至リ而カモ尙ホ被害地ハ年ヲ追フテ増加シ今ハ官民兩有地貳拾萬町歩ニ涉リテ尙ホ底止セサル有様ナルニ之カ善後ノ處置ヲ施サ、ルハ如何

一 天然ノ地形ハ足尾銅山ノ鑛毒豫防工事カ寸毫モ效果ナキ事ヲ明治三十五年ノ風雨ニ依リ山岳ノ崩壞、新土ノ流出ニ由ル下流作物ノ變化及ヒ河底凸起ノ急ナルヲ以テ顯著ニ證明サレタリ然ルニ政府ハ今ニ至ルモ此有害ナル鑛業ヲ停止セス官林濫伐ヲ禁止セサルハ如何

一 政府ハ鑛業條例ヲ無視シ人權ヲ蔑視シ關東五州ノ沃野ヲ荒廢ニ歸セシメントスルハ如何

一 政府ノ鑛毒調查報告書ナルモノハ偏ニ鑛業ヲ繼續セシメントスル方針ヲ以テ作成シ毫モ根本的土地人民救済ノ意アルナシ又天然ノ氣象自然ノ地形地勢等ノ關係ニ論及セズ唯鑛業停止ノ實行ヲ避ケントスルハ如何

一 今ヤ軍國多事ニシテ國民ノ視聽洽ネク內政ニ及ハサルヲ奇貨トシ政府ハ一人古河潤吉ト結託シ鑛業ヲ停止セス山林ノ濫伐ヲ禁止セス一府五縣二百餘箇村ヲ舉ゲテ之ヲ永遠ニ滅亡セシメントスルカ

右及質問候條速カニ答辯セラレム事ヲ望ム

○議長(松田正久君) 桂總理大臣ノ演說

(内閣總理大臣伯耆桂太郎君登壇)

○總理大臣(伯耆桂太郎君) 諸君、本大臣ハ此振古未曾有ノ時機ニ召集致サレマシタ、當議會ニ於キマシテ、諸君ト共ニ聖謨ヲ翼贊シ奉ルベキ責任ヲ有シマスルヲ、誠ニ光榮ト存ジマス、抑モ締盟列國トノ交誼ヲ厚クシ、列國ノ正當ナル利權ヲ尊重致シマシテ、東洋ノ平和ヲ永遠ニ保持シ、帝國ノ地位ヲ鞏固ニ致シマスルコトハ、帝國ノ國是トスル所デゴザイマス、然ルニ露國ノ滿洲及韓國ニ於キマスル施設行動ハ、實ニ此國是ト相容レザルモノデゴザイマスヲ以テ、政府ハ、聖旨ヲ奉ジマシテ、昨年七月以來露國ト交渉ヲ重ネマシタ、然ルニ露國ハ誠意ヲ以テ我々交渉ヲ迎ヘザルノミナラズ、益々我國權ヲ侵害スルノ行動ニ出デ、悍ル所ガナカッタデゴザイマス、是ニ於テ帝國ハ自衛上交渉ヲ斷絶致シマシテ、自由行動ヲ取ルノ已ムヲ得ザルニ至リマシタガ、我政府ガ此交渉ヲ爲スニ當リマシテ、戰爭ノ社會ニ及ベキ結果ノ非常ナルモノデアルト云フ事ヲ思ヒ、切ニ平和ノ終局ヲ見ント欲シマシテ、守持致シマシタ所ノ正義ト忍耐ト申シマスルモノハ、既ニ孰レノ國民ニモ十分了解セラレテ居ルコト、信ジマス、諸君、今日ノ場合ニ於キマシテハ、舉國一致 聖旨ヲ奉戴致シマシテ、交戰ノ目的ヲ達シ、勝ヲ全局ニ制シマシテ、速ニ平和ノ克復ニ努メマスルコトハ、實ニ帝國臣民皆其志ヲ同ジウスル所デアルコトハ疑ヒマセズ、政府ハ茲ニ軍國ノ必要ニ應ジマスルマシテ、財政ノ計畫ヲ定メマシテ、豫算及法律案ハ、既ニ勅旨ヲ奉ジマシテ當議會ニ提出致シマシタ、尙外交ノ經過及財政ノ計畫ニ就キマシテハ、主務大臣ヨリ陳述致シマスルガ、諸君ガ公平ナル審議ヲ盡サレマシテ、速ニ協贊ヲ與ヘラレシコト

ヲ、切ニ希望致シマスル次第デゴザリマス、諸君、開戦以來忠勇ナル軍人が萬歳ヲ冒シマシテ、著々大功ヲ奏シマシタコト、報ニ接シマシタノハ、諸君ト共ニ稱賀致シマスル所デゴザリマス、諸君ハ既ニ此議會ニ列セラレ、優渥ナル聖詔ヲ奉セラレマシタガ、本大臣等ハ諸君ト共ニ、一軍國ノ大事ヲ翼賛シ、聖旨ノ厚キニ酬ヒ奉ランコトヲ期シマスル次第デゴザリマス

(拍手起ル)
議長(松田正久君) 小村外務大臣ノ演說

(外務大臣男爵小村壽太郎君登壇)

○外務大臣男爵(小村壽太郎君) 諸君、茲ニ本院ニ向ッテ、日露交渉ノ開始ヨリ斷絶ニ至ルマデノ經過ヲ御報道致シマスノハ、本大臣ノ光榮ト致ス所デゴザリマス(拍手起ル)此交渉モ半箇年餘ニ渉リマシテ、頗ル複雑ヲ極メテ居リマスガ、其始末ノ極ク概略ヲ、簡單ニ申上ゲマスル積リデゴザリマスカラ、暫ク御清聴ヲ煩シタク存ジマス(拍手起ル)御承知ノ如ク、明治三十二年ノ夏、義和團事變ナルモノ、圖ラズ北清ニ起リ、列國ハ其使臣及在留民ヲ救護スルノ目的ヲ以テ、兵ヲ直隸ニ送り、協同一致ノ行動ヲ執リツ、アルニ際ニ露國ハ大兵ヲ滿洲ニ進メ、遂ニ其全部ヲ占領致シマシタ、其當時露國ハ此占領ヲ以テ、單ニ滿洲ノ叛徒ヲ鎮壓スルタメニシテ、決シテ征服ノ目的ニアラズ、滿洲ニ於ケル清國ノ主權及領土保全ハ、飽マデ其尊重スル所ニシテ、從ッテ又滿洲ノ占領モ、全ク一時已ムラ得ザルノ措置タルコトヲ屢、宣言スルニ拘ラズ、露國ハ清國政府ニ迫リテ、滿洲ニ於ケル清國ノ主權ヲ侵シ、竝ニ列國條約上ノ權利ト相容レザル性質ノ條約ヲ、締結セシメント致シマシタルコトハ、敬ニ及ビマシタ、帝國政府ハ其都度屢々清國及露國政府ニ向ッテ、警告ヲ加ヘマシタ次第デゴザリマシタガ、其極遂ニ明治三十五年ノ四月ニ至ッテ、露國ハ滿洲還附ノ條約ヲ締結致シマシタ、其後露國ハ滿洲還附ノ準備ニ著手致シマシタ、其一部ハ既ニ實行致シマシタガ、昨年四月ニ至リマシテ、俄カニ其態度ノ一變シ、管ニ滿洲行政還付及撤兵ヲ行フコトヲ中止シタルノミナラズ、清國ニ向ッテ新タニ種々要求ヲ提出致シマシタル始末デゴザリマス、斯ノ如ク露國ノ政策ニ激變ヲ來シマシタルハ、豫テヨリ露國當局者ノ間ニ議論ガ一派ニ岐レテ居リマシタガ、滿洲ノ永久占領ヲ主張スル一派ノ意見ガ、其勝チヲ制シタル結果デアラウト信ジテ居リマシタル、滿洲ニ於ケル事態ノ發展ハ、帝國政府ニ於テ、深ク注意ヲ加ヘタコトデゴザリマシタ、御承知ノ如ク韓國ノ獨立及領土保全ニ一事ハ、帝國ノ康寧ト安全ノタメ、緊要缺クベカラザルコトデゴザリマシタ、實ニ我帝國傳來ノ國是デゴザリマス、若シ露國ガ滿洲ヲ併吞致スト云フコトニナリマスレバ、朝鮮ノ存立ハ絶ヘズ迫害ヲ被ルコト、ナリマシタ、又東洋ノ平和ヲ確立スルコトモ出來ナクナリマス、故ニ帝國政府ハ深ク國家ノ前途ヲ慮ルニ於テ、一日モ速ニ露國ト交渉ヲ遂ゲ、日露兩國ノ利益ヲ、接觸點タル滿洲兩地ニ於ケル交互ノ利益ヲ、友誼的ニ調理シ、將來兩國間ニ衝突ノ起ルベキ原因ヲ一掃スルハ、東洋ノ平和ヲ鞏固ニシ、帝國ノ權利利益ヲ確保スル所以ナルヲ思ヒ、之ガタメ露國ト交渉ヲ開クコトニ廟議一決致シマシタ、因テ昨年七月二十八日在露公使ニ電訓致シマシタ、露國政府ニ向ッテ我希望ナル所ヲ披瀝シ、其贊同ヲ求メントシタルニ、露國政府モ欣然ニ同意ヲ表シマシタ、且亦露國外務大臣ハ本件ニ付、談判開始ノ勅裁ヲ得タル旨ヲ回答致シマシタ、因テ八月十二日談判ノ基礎タルベキ條件ヲ、露國政府ハ提出致シマシタ、其條件ノ重ナルモノヲ舉ゲマスレバ、第一清韓兩國ノ獨立及領土保全ヲ尊重スルコトヲ相互ニ約スルコト、第二清韓兩國ニ於ケル各國ノ商業及工業ノタメニ機會均等ノ主義ヲ保持スルコトヲ相互ニ約スルコト、第三露國ハ韓國ニ於ケル日

本ノ優越ナル利益ヲ承認シ、日本ハ滿洲ニ於ケル鐵道經營ニ附、露國ノ特殊ナル利益ヲ承認シ、併セテ第一項第二項ノ主義ニ抵觸セザル限リ、各自ノ利益ヲ保護スルタメ必要ノ措置ヲ執リ得ルコトヲ、相互ニ承認スルコト、第四韓國ニ於ケル改革及施政改善ノタメ、助言及助力ヲ與フルハ、日本ノ專權ニ屬スルコトヲ露國ニ於テ承認スルコト、第五今後韓國鐵道ヲ滿洲南部ニ延長シ、東清鐵道及山海關營口間鐵道ト聯結セシメントスルコトアルモ、之ヲ阻礙セザルコトヲ、露國ニ於テ約スルコト、我提議ノ要點ハ唯今述ベマシタル五箇條デゴザリマス、露國外務大臣ハ此提案ヲ受取リマシテヨリ、數日ヲ經テ本件商議ヲ東京ニ移サンコトヲ、突然發議致シマシタ、然ルニ帝國政府ニ於キマシテハ、本件商議ヲ露國ニ於テ直接ニ露國當局者ト繼續スルコトヲ、事ノ進行上最モ便宜ト考ヘマシタルノミナラズ、丁度其當時露國ハ極東ニ於ケル行政組織ヲ變更致シマシタ、新タニ極東總督ヲ置キマシタニ依リ、東京ニ此商議ヲ移シマスルコトハ、満足ナル妥協ヲ得ルニ便ナラシムル所以ニアラズト考ヘマシタカラ、露國政府ニ向ッテ商議地ヲ轉ノコトニ關シマシタ、再三反對ヲ致シマシタケレドモ、露國外務大臣ハ、皇帝ノ外遊等ヲ理由ト致シマシタ之ヲ容レマセヌ、又我提議ヲ以テ大體上談判ノ基礎ト致サンコトニ附キマシテ、露國政府ノ同意ヲ求メマシタルノニ、露國政府ハ我提案ト露國ヨリ提出スベキ對案トヲ併セテ、之ヲ以テ談判ノ基礎ト致サンコトニ同意ヲ致シマシタカラ、帝國政府ニ於キマシテモ、此上談判ノ開始ヲ遷延セシムルヲ不利益ト認メマシタ、遂ニ東京ニ談判ヲ移スコトニ同意ヲ致シマシタ、同時ニ露國ノ對案ナルモノヲ、成ルベク速ニ提出サレンコトヲ要望致シマシタガ、漸ク十月二日ニ至リマシテ、露國ハ其對案ヲ提出致シマシタ、露國ノ對案ヲ見マスノニ、露國ハ韓國ノ獨立及領土保全ヲ尊重スルコトヲ約スルコトハ、異議ハゴザリマセヌケレドモ、其約諾ヲ清國ニ及スコトヲ拒ミ、又清國ニ於ケル各國ノ商業工業上ノタメ、機會均等ノ主義ヲ認ムルコトヲ肯ゼザルノミナラズ、滿洲及其沿岸ヲ以テ、全然日本ノ利益範圍外タルコトヲ、日本ニ於テ承認センコトヲ求メタル次第デゴザリマス、又韓國ノコトニ關シマシタハ、韓國ニ於ケル我自由行動權ニ對シ、種々ノ制限ヲ附シ、日本ノ利益保護上、必要ノ場合ニ日本ヨリ出兵スルノ權アルヲ認メマシタケレドモ、出兵ヲ致ス場合ニハ、豫メ露國ニ知照スルヲ要シ、又韓國領土ノ一部ヲトリモ、軍略上ノ目的ニ使用スルコトヲ禁ジ、又北緯二十九度以北、即チ朝鮮領土ノ三分ノ一以上ニ當リマスル地域ヲ以テ、中立地帶トナサンコトヲ提議致シマシタ、然ルニ滿洲ニ於ケル清國ノ主權及領土保全ノ維持ハ、韓國ノ存立ヲ保持致シマスルタメ、絕對的ニ必要デゴザリマス、又此事タル露國ガ自ラ任意ニ且屢、宣言シタル所ノ主義デモゴザリマス、又露國ヲシテ條約上ノ權利ヲ尊重スルコトヲ約諾セシメ、列國ト共ニ商業上ノ利益ヲ全ウスルコトヲ必要ト認メマシタカラ、是等ノ點ニ關シマシタハ、飽マデモ我主張ヲ維持スルコトニ決シマシタ、又其他韓國ノコトニ關シマシタモ、一々必要ノ修正意見ヲ確定致シマシタ、例ヘバ日本ヨリ韓國ハ出兵スル場合ニハ、何等ノ制限ヲセザルコト、又若シ中立地帶ヲ設クルコト、致シマスレバ、其中立地帶ハ滿韓境界ノ兩側ニ跨リマシタ、一定ノ距離ヲ劃シマシタ、南北各五十「キロメートル」ニ互ル地域ヲ以テ、中立地帶トナスコトヲ提議スルコトニ極メマシタ、十月六日以來、露國公使ト數回會見ヲ致シマシタ、反覆辯論ヲ重ネマシタルガ、其結果或ル一部ニ附キマシタハ、我修正ヲ容レマシタケレドモ、根本ノ主義ニ付キマシタハ、到底意見ノ一致ヲ見ルコトガ出來ナカッタデゴザリマス、故ニ政府ニ於キマシタハ、十月三十日ニ一ノ確定修正案ヲ提出致シマシタ、露國政府ノ再考ヲ促シマシタ、其後在露公使ヲ再三再四露國ノ回答ヲ促サシマシマシタケレドモ、遷延又遷延ヲ重ネマシタ、漸ク十二月十一日ニ回答ニ接シマシタ、其回答ガ即チ露國ノ第二回對案デゴザリマス、帝國政府ハ此ノ如ク露國ノ回答ヲ遷延致シ

マシタノヲ、深ク遺憾ト致シタルガ、其回答ノ内容ヲ見ルニ及ビマシテ、尙一層失望ヲ感シタル、ナゼト申シマスル、露國ハ其第二回ノ對案ニ於キマシテハ、滿洲ニ關スル條項ヲ全然削除シ、本協商ヲ以テ單ニ韓國ノミニ關スルコトシ、而シテ又韓國ニ於テ北緯三十九度以北ニ中立地帶ヲ設クルコト、又韓國ノ領土ヲ軍略上ノ目的ニ使用セザルコトニ付キマシテハ、ヤハリ原主張ヲ其儘維持シタル譯デゴザイマス、然ルニ本協商ノ目的ハ、曩ニ述ベマシタル如ク、日露兩國利益ノ接觸點ニ於テ、相互ノ關係ヲ明カニ致シマシテ、將來衝突ノ原因ヲ一掃スルコトヲ、期シマスル譯デゴザイマス、若シ滿洲ヲ協商ノ範圍外ニ置キマシタル時ニハ、問題ノ一半ハ依然解決ヲ見ズシテ、其儘存續致シマシテ、當初帝國政府ガ交渉ヲ開キマシタル趣旨ニ副ハナイ次第デゴザイマス、故ニ此ノ點ニ付キマシテハ、更ニ露國政府ノ再考ヲ促シ、又韓國ニ關シマシテハ、朝鮮領土使用ニ關スル制限ヲ削除センコトヲ、重テ要求致シマシタ、又中立地帶ニ關シマシテハ、露國ニ於テ此中立地帶ヲ、滿洲ニ跨ラシムルコトニ付キマシテ、不同意デアル以上ハ、韓國ニモ亦之ヲ設ケザルコトヲ、至當ト認メマシタカラ、中立地帶ニ關スル條項ハ、全部削除スルコトヲ提議致シマシタ、此提議ニ對シマシテハ、露國ハ一月六日ニ回答ヲ與ヘマシタ、此回答ノ要旨ヲ述ベマスレバ、韓國ニ關スル露國ノ主張ハ、ヤハリ其儘維持致シマシテ、而シテ韓國ニ關スル露國ノ要求ヲ、我政府ニ於テ承諾スルコトヲ條件ト致シマシテ、滿洲ニ於テハ日本又ハ其他ノ國ガ、清國トノ現行條約ノ下ニ獲得シマシタル權利及特權ノ享有ヲ、阻礙セザルベキコトヲ承諾致サウト云フ譯ヲ出シマシタ、而シテ滿洲ニ於ケル領土保全ニ關シマシテハ、何等ノ規定モ設ケテナイノデゴザイマス、故ニ露國ハ滿洲ニ關スル我要求ノ一部ヲ、容レタ如クデゴザイマス、其實ヲ申シマスレバ、韓國ノコトニ關シマシテ、到底吾ニ於テ同意ノ出來ナイ事柄ヲ以テ條件ト致シマス、又縱令條約上ノ權利ヲ尊重スルコトヲ約諾致シマシテモ、滿洲ニ於ケル領土保全ヲ維持シマセヌ以上ハ、此約諾モ實際ニ於テ何等ノ效力ガナイモノデゴザイマス、帝國政府ハ是非トモ露國ヲシテ滿洲ニ於ケル領土保全ヲ尊重スルコトヲ約諾セシメ、又韓國ノ事ニ關シマシテハ、讓歩ノ餘地ガゴザイマセヌカラ、飽マデ我主張ヲ貫クコトニ決シマシテ、一月十三日露國政府ニ向テ、更ニ再考ヲ求メマシタル次第デゴザイマス、其後在露國公使ヲシテ、再三回答ヲ促シマシタ、又再考ヲ求メマシタル言ヲ左右ニ託シテ、當ニ回答ヲ與ヘザルノミナラズ、一月三十一日ニ至リマシテモ、尙其回答ヲ與フベキ期日スラモ、指定シナカッタ云フ次第デゴザイマス、帝國政府ハ唯今述ベマシタル如ク、終始和協坦懷ノ精神ヲ以テ、露國ニ接シマシテ、露國ノ提議ハ帝國ノ緊切ナル利益ト接觸セザル限り、成ルベク之ヲ容レマシテ、速ニ時局ヲ解決センコトヲ期シマシタ、レドモ、露國ハ常ニ謂ハレナク回答ヲ遷延シ、又到底妥協ノ望ハゴザイマセヌ修正ヲ提出シテ、時局ヲ益々困難ニ陷ラシメタルノミナラズ、一方ニ於テハ頻リニ平和ヲ唱導シ、和協ノ態度ヲ裝ヒツ、他ノ一方ニ於テハ陰ニ海陸ノ兵備ヲ盛ニシ、其有力ナル軍艦ノ如キハ、殆ド悉ク東洋ニ派遣セラレ、又數萬ノ兵ハ滿洲地方及其附近ニ増遣セラレ、加フルニ兵器彈藥、糧食、石炭ノ輸入輸送等、實ニ夥シキコトデゴザイマシタ、露國ハ誠意誠心和協ノ意ナク、武力ヲ以テ我國ヲ屈從セシメント期シタルコトハ、爭フベカラザル事實トナリマシタ、殊ニ一月下旬ニ至リマシテハ、滿洲ニ於ケル露國ノ軍事活動ハ、益々急調ヲ呈シテ、此上空シク時日ヲ經過スルニ於テハ、我國ハ到底回復ノ出來ナイ位置ニ立到ルハ、必然ノ勢トナリマシタ、帝國政府ハ衷心平和ヲ思フニ切實ナルモ、事茲ニ至リマシテハ、最早一日モ緩ウスルコト能ハサルガ故ニ、最モ慎重ニシテ且周密ノ考慮ヲ加ヘマシテ、終ニ露國トノ交渉ヲ斷絶シ（拍手起）自衛ノため必要ノ措置ヲ取ルコトニ、廟議一決致シマシテ、即チ二月五日在露公使ニ電訓ヲ發シマシテ、帝

國政府ハ日露協商ニ關スル交渉ヲ斷絶シ、自カラ侵迫ヲ被リタル位置ヲ防衛シ、併セテ帝國ノ既得權及正當利益ヲ擁護スルため、最良ト思惟スル獨立ノ行動ヲ取ルベキ事、竝ニ兩國ノ外交關係ヲ斷絶シ、公使館ヲ撤退スベキコトヲ、露國政府ニ通告スベキ旨ヲ訓令致シマシタ（拍手起）在露公使ハ其翌日二月六日露國政府ニ向テ、此通告ヲナシタル次第デゴザイマス、日露交渉ノ顛末ハ、概略唯今申上ゲマシタ通デゴザイマス、尙詳細ノ事ハ、本日交渉ニ關シマスル往復書類ヲ、本院ニ提出致シテ置キマシタカラ、此書類ニ就イテ委曲御承知アラントヲ希望致シマス	
○議長 松田正久君 諸君、御報道ヲ致シマスガ、先刻小村外務大臣ヨリ議長ニ宛テ、日露交渉ニ付テノ往復書類ヲ送付ニナリマシタ、是ハ大部ノモノデアリマスカラ、總テ期讀ハ出來マセヌガ、今其目錄大ケテ讀ミマシテ、總テハ速記録ニ掲ゲテ配付ヲ致ス都合ニ致シマス	
〔書記朗讀〕	
外務大臣送付日露交渉ニ關スル往復別冊一部及御回付候也	
明治三十七年三月二十三日	
衆議院議長松田正久殿	
日露交渉ニ關スル往復別冊一部及御送付候也	
明治三十七年三月二十三日	
衆議院議長松田正久殿	
日露交渉ニ關スル往復目次	
番號	年 月 日 自 誰 至 誰
一	明治三十六年七月二十日 外務大臣 在露公使
二	同 八月二日 在露公使 外務大臣
三	同 八月三日 在露公使 外務大臣
四	同 八月五日 在露公使 外務大臣
五	同 八月六日 在露公使 外務大臣
六	同 八月十四日 在露公使 外務大臣
七	同 八月二十四日 同 上
八	同 八月二十五日 在露公使 外務大臣
九	同 八月二十六日 在露公使 外務大臣
十	同 八月二十八日 在露公使 外務大臣
十一	同 八月二十九日 在露公使 外務大臣
十二	同 八月三十一日 在露公使 外務大臣
十三	同 九月二日 在露公使 外務大臣
十三	同 九月六日 在露公使 外務大臣

大 意
滿洲兩地ニ關シ日露間ニ協商ノ遂クル爲メ
南滿洲鐵道開クコトニ付露國政府ノ意向ヲ確ム
ヘキ旨訓令
露國外務大臣ハ一己ノ意見ヲシテ右ニ異議
ナキモ同國皇帝ノ允可ヲ得確答スヘキ旨同
答セリトノ件回報
「ラムスドルフ」伯談判開始ノ允可ヲ得タル
旨稟報
露國政府ニ對シ協商案提出方訓令
「ラムスドルフ」伯（右協商案ヲ手交シタル
旨稟報
「ラムスドルフ」伯ヨリ本件協商ヲ東京ニ移
スヘントノ發議アリタル旨報告
南滿洲鐵道變更ノ反對スヘキ旨訓令
露國外務大臣ニ於テハ其ノ主張ヲ固持スル
旨回報
重テテ南滿洲鐵道變更ニ反對シタ日本ノ提案
ヲ以テ南滿洲鐵道變更ヲ爲サシムルコトニ付訓
令
右ニ對スル露國外務大臣ノ異議報告
露京ニ於テ協商ヲ繼續シ竝ニ日本提案ヲ以
テ南滿洲鐵道變更ヲ爲サシムルコトニ付再應
訓令
露國外務大臣ハ日本ノ提案ト露國ノ對案ト
ヲ以テ基礎トシ又南滿洲鐵道變更ト東京ニ於テ之ヲ行
フコトヲ主張スル旨回報

十四	同	九月七日發	外務大臣	在露公使	右ニ對シテ同意ヲ表シ併セテ速ニ露國對案ヲ提出スルヘキ旨訓令
十五	同	九月九日發	在露公使	外務大臣	「ロゼン」公使及極東總督ハ既ニ必要ノ訓令ヲ受ケタリトノ件同報
十六	同	九月二十四日發	外務大臣	在露公使	「ロゼン」公使「アレキシエフ」大將ト協議「ロゼン」公使旅順ヨリ歸來ノ上提出シタル露國對案內示
十七	同	十月五日發	同上	同上	「ロゼン」公使ト會商ヲ開始シタル旨通報露國對案ニ對シ提出シタル修正條項內示
十八	同	十月八日發	同上	同上	露國對案ニ對シ提出シタル日本ノ確定修正案內示
十九	同	十月十六日發	同上	同上	右確定修正案ハ「ロゼン」公使帶有ノ訓令範圍外ニ屬スル趣ヲ以テ同公使ヨリ本國政府ノ訓令ヲ求メタルニ付露國外務大臣ニ面會ノ上帝國政府ノ主張ヲ説明スヘキ旨訓令
二十	同	十月二十二日發	同上	同上	右訓令ニ依リ露國外務大臣代理ト會議ノ要領具報
二十一	同	十月二十九日發	同上	同上	確定修正案ニ關シ「ラムスドルフ」伯ト會議速ニ談判ヲ繼續スル機「ロゼン」公使ヘ發訓令ニ基キ「ラムスドルフ」伯ト會談ノ結果報告
二十二	同	十一月一日發	同上	同上	「ロゼン」公使「發訓令」手續執ラレシヤ否「ラムスドルフ」伯ニ問合方訓令
二十三	同	十一月三日發	在露公使	外務大臣	皇后御不豫ノ爲メ「ラムスドルフ」伯皇帝ニ拜謁ヲ延引シタル件申報
二十四	同	十一月十三日發	同上	同上	交渉問題速決ノ緊要ヲ露國政府ニ說示スヘキ旨訓令
二十五	同	十一月二十一日發	外務大臣	在露公使	露國政府ハ尙「アレキシエフ」總督ト通信ヲ重ネツ「アル」旨必報
二十六	同	十一月二十八日發	同上	同上	交渉問題速決ノ緊要ヲ露國政府ニ說示スヘキ旨訓令
二十七	同	十二月一日發	外務大臣	在露公使	果通報スヘキ旨「ラムスドルフ」伯ヨリ答話ノ件
二十八	同	十二月二日發	同上	同上	「アレキシエフ」總督ヨリ提出ニ係ル露國修正對案ヲ基礎トシ談判ヲ繼續スヘキ旨ノ勅命既ニ同總督ヨリ「ロゼン」公使ニ發送セラルタル旨「ラムスドルフ」伯ヨリ談話ノ件
二十九	同	十二月四日發	同上	同上	前記露國修正對案「ロゼン」公使ヨリ提出ニ付通報
三十	同	十二月九日發	同上	同上	右ニ付協商ノ範圍ニ關シ露國政府ノ再考ヲ求メ露國政府力必要ト認ムル修正對案ヲ「ラムスドルフ」伯ニ提示ノ爲メ口上書提出方訓令
三十一	同	十二月十日發	同上	同上	右口上書提出ノ件同報
三十二	同	十二月十二日發	外務大臣	在露公使	「ラムスドルフ」伯ニ會見右口上書ニ關スル露國政府ノ處置問合ノ結果申報
三十三	同	十二月二十一日發	同上	同上	「ロゼン」公使ヨリ新ニ提出シタル露國政府ノ復答內示
三十四	同	十二月二十三日發	在露公使	外務大臣	露國ノ復答ニ關シ外務大臣ヨリ露國公使ヘ開陳ノ次第ヲ確メ「ラムスドルフ」伯ヘ口上書手交方訓令
三十五	同	十二月二十四日發	同上	同上	右口上書ニ對シ露國政府ノ回答ニ付「ラムスドルフ」伯ニ問合方訓令
三十六	同	十二月二十四日發	在露公使	外務大臣	
三十七	同	明治三十七年一月一日發	同上	同上	
三十八	同	一月七日發	外務大臣	在露公使	
三十九	同	一月十三日發	同上	同上	
四十	同	一月二十三日發	同上	同上	

四十一	同	一月二十五日發	同上	外務大臣	右訓令ニヨリ「ラムスドルフ」伯ト會見ノ結果具報
四十二	同	一月二十六日發	外務大臣	在露公使	「ラムスドルフ」伯ニ會見露國政府ノ回答ヲ促スヘキ旨訓令
四十三	同	一月二十六日發	在露公使	外務大臣	右ニ付「ラムスドルフ」伯ト返答並ニ帝國カニ付同伯ヨリ質問アリタル件申報
四十四	同	一月二十八日發	外務大臣	在露公使	韓國ニ軍隊運送ノ報ヲ否認シタル上韓國國境ニ於ケル露軍集中ノ報ニ付實否ヲ質シ向露國回答ノ性質及日取ヲ尋ヌヘキ旨訓令
四十五	同	一月二十八日發	在露公使	外務大臣	右ニ付「ラムスドルフ」伯ト會見ノ結果申報
四十六	同	一月三十日發	外務大臣	在露公使	露國回答ノ確定タル日取ヲ問合スヘキ旨再應ノ訓令
四十七	同	二月一日發	在露公使	外務大臣	右日取ハ確言スル能ハサル旨「ラムスドルフ」伯ト返答具報
四十八	同	二月五日發	外務大臣	在露公使	日露協商ニ關スル談判ヲ斷絶シ同時ニ帝國政府ハ自衛ノ爲メ並ニ帝國ノ權利及利益ヲ擁護スル爲メ最良ト思惟スル獨立ノ行動ヲ採ルコトノ權利ヲ保留スル旨露國政府ヘ通牒方訓令
四十九	同	二月五日發	同上	同上	露國政府トノ外交關係ヲ斷絶シ館員ヲ率ヒテ露京ヲ撤退スル旨露國政府ヘ通牒方訓令
五十	同	二月五日發	在露公使	外務大臣	露國回答ノ要旨ハ既ニ「アレキシエフ」總督ヘ電報セラレタル旨並ニ其ノ内容ニ關スル露國外務大臣ト談話報告
五十一	同	二月六日發	同上	同上	日露協商談判並ニ露國トノ外交關係斷絶ノ公文提出ヲ了シタル旨申報

○重岡薫五郎君(二百五十六番) 議長
○神藤才一君(六十七番) 先程私ガ申上ゲテ置キマシタ……
○議長(松田正久君) 後トデ……

(大藏大臣男爵曾禰荒助君登壇)

○大藏大臣(男爵曾禰荒助君) 諸君、今回ノ大體ノコトニ就キマシテハ、既ニ總理並外務兩相ヨリ、御話モゴザイマシタコトデスカラ、更ニ辯ラ俟チマセヌ、私ハ茲ニ此戰時財政ノ計畫ニ付キマシテ一言致シマス、御手許ニ既ニ同ッテ居リマス諸種ノ法案ハ、殆ド皆此戰時財政ニ基クモノデゴザイマス、政府ハ宣戰ノ聖旨ヲ奉體致シマシテ、交戰シ目的ヲ達スルコトニ全力ヲ盡シマスシ、併セテ帝國ノ名譽ト權利トヲ保全スルタメニ、最も適切デヤト考ヘマシタコトヲ經畫ヲ立デマシテ、即チ茲ニ諸君ノ協贊ヲ仰グノデゴザイマス、是ト同時ニ憲法第七十條ニ據リマシタ財政處分ニ付テ、御承諾ヲ求メマス、其總テノ經畫ノ今同ノ時局ニ對シマシテ、必要デゴザイマスコトハ、即チ目下ノ形勢ニ徴シマシテ、明白デゴザイマスカラ、更ニ多辯ハ致シマセヌ、唯此點ニ於キマシテハ、諸君ノ熱誠ト國民全般ノ奉公心トニ信賴スルノミデゴザイマス、而シテ諸種ノ法案ニ就キマシテハ、イッレ委員會ニ於キマシテ、本大臣並ニ政府委員ヨリ、詳細ニ説明ヲ致シマスデゴザイマス、冀クハ諸君ニ於カレマシテハ、慎重ナ御調査ヲ下サレマシテ、ツレト同時ニ速ニ御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ、切望シマセヌ、今ヤ此國家ノ非常ナ場合ニ際會シマシテ、多大ナ負擔ヲ國民ニ負ハシムルト申シマスノハ、實ニ忍ビ難イコトデハゴザイマスガ、是亦已ムヲ得ナイコトデゴザイマス、是ト同時ニ一言申シテ置キマスノハ、政府ニ於キマシテモ、出來得ル限リ諸種ノ經費ヲ節減シマシテ、以テ此經濟ノ補填ニ致スト云フコト

ハ、無論ノコトデゴザイマスルカラ、其邊ハ諸君ニ於カレマシテモ御了承アッテ、速ニ御協賛
アランコトヲ、切望ニ堪ヘマセヌ

○根本正君(九十三番) 本員ハ大藏大臣ニ質問ヲ致シマスルガ、軍費一箇年ノ見
積額ガ、五億八千六百萬圓ト云フコトニテ居リマスルガ、最モ政府ニ注意ヲ促スト同
時ニ、國民ノ此額ニ付イテ如何ニ支出スベキカラ、承知シタイト云フ點ニアリマスルガ、此
五億萬圓ノ大金ノ中ニ、外國ニ全ク流出致シマシテ、帝國ニ回收セザル金額ヲ承リタ
イ譯デアリマス、固ヨリ此金額ノ明確ナルコトハ、御分リニナリマスマイケレドモ、斯ク大
金ヲ支出スルニ當リマシテハ、國民タルモノガ、何程此中我帝國ニ回收スルモノデアルカ
何程海外ニ流出シテ、再ビ復ラザルモノデアルカト云フコトヲ承知シマスルノハ、最モ大切
ナルコトデアリマスカラシテ、此金額ヲ承リタイト思ヒマスル、同時ニ逓信大臣ニ質問スル
トガアリマス、此豫算ノ性質ニ依リ、且又政府ノ財政計畫ニ依リマスルコト云フト、行政ノ費
用ヲ省ク金額ハ、此先僅ニ百數十萬圓ニ過ギザルト云フコトデアリマスルガ、斯ノ如キ大
金額ヲ吾々ガ快議スルニ當リマシテハ、行政ノ費用ヲ十分ニ節約スルノハ、當然ノコトデ
アリマスル、其中行政ノ費用ニ付イテイロ、同ヒタイコトモアリマスルガ、此際細カ
トハ同ヒマセヌガ、唯一ツ逓信省所管ニ屬スル所ノ電信ノ架ケ方デアルハ、過ル第十八
議會ニ於テ、私ガ質問ヲ致シテ置キマスルガ、今日百數十萬圓ホカ費用ヲ減ズルコトガ
出來ヌト云ヒマスレドモ、此逓信省ガ電信ノ架ケルコトニ付イテ、二ツニ出來テ居ル、即
チ此地方費ヲ以テ、各縣ニ於テ警察電話ト云フモノニ付イテ三百萬圓以上ヲ費シテ居
ル(「簡單々々」無用々々)ト呼フモノアリ)同時ニ又(無用々々)……一億費シテ居
マスルガ、斯ノ如ク同道ニ同ジヤウニ費用ヲ費シテ置クト云フコトハ、即チ是ハ行政ノ統
一ガ宜クナイト云フコトノ故ニ、同ジ費用ヲ一ツ出シテ居ル、即チ是ハ縣費ト國費デハア
リマスルガ(「無用々々」簡單々々)ト呼フモノアリ)……ト思ヒマスルガ、是ハ如何ナル調
ベニナッテ居リマスルカ、此二ツノ點ヲ明カニ御答ヲ請ヒマス

○大藏大臣(男爵曾福荒助君) 唯今質問モゴザイマシタガ、前申上ゲル通ニ、十分ノ
事ハ委員會デ申上ゲ、能ク御話シマシセウ、斯ウ云フコトニ致シテ置キマス

(「ヒヤ」)「宜シイ」ト呼フ者アリ
(恆松隆慶君)議長日程ニ移ラレテハ如何デス、此場合デスカ成ルタケ質問ハ
略シタ方ガ宜シウゴザイマス」ト呼フ

○神藤才一君(六十七番) 議長質問ガゴザイマス
○議長(松田正久君) 神藤君ハドウ云フ御質問デスカ

○神藤才一君(六十七番) 我輩ノ質問ハ願ヒマスルコトハ(「無用々々」ト呼フ者アリ)
無用デナイ、大體ノコトニ付イテ御問申シマス、ツレバ總理大臣ノ申サレタ所ノ中ニ、舉
國一致ト云フコトガアル、舉國一致ヲ以テ交戦ノ目的ヲ達スルコト云フコトガアリマス
ガ、此目的ト云フモノハ總度ノアルモノデス(「無用々々」ト呼フ者アリ)此程度ノ
大小ニ從ヒマシテ、又國民ガ之ニ盡サナケレバナラヌ(「無用々々」ト呼フ者アリ)無用デナイ、
諸君ハ此際ニ無用ト云フノハ何デ(「無用ナルガ故ニ無用ト云フ」ト呼フ者アリ)舉國一
致ハ無用デナイ(「無用々々」ト呼フ者アリ)「特別委員會ガアルカラ宜イデナイカ」ト呼
フ者アリ)「イハ併シナ」(「無用々々」ト呼フ者アリ)總理大臣ノ演説ハ、特別委員ニ付ス
ルコトハ出來ナイ、外ノ問題ナラ特別委員會ニ付スルコトガ出來ルケレドモ……
○議長(松田正久君) 神藤君簡單ニ御質問ノ趣意ヲ……

○神藤才一君(六十七番) ツレニ就キマシテ、其目的ノ程度ト云フモノヲ、總理大臣
閣下ニ承リタイモノデアル、目的ノ程度ニ依リマシテ、國民ガ應ゼナケレバナラヌコトガア
ル、之ヲ一ツ同ヒタイ

○恆松隆慶君(百七十四番) 第一ノ日程……

○神藤才一君(六十七番) 御答ハアリマセヌカ

○議長(松田正久君) 是ヨリ議事日程ニ移リマス

○小河源一君(二百四十一番) 緊急動議——ガアリマス

○議長(松田正久君) 議事日程第一臨時事件費支辨ニ關スル法律案ノ第一議會
ヲ開キマス、朗讀ハ省略ラ致ス……

○小河源一君(二百四十一番) 緊急動議

○神藤才一君(六十七番) ドウナリマシタ、唯今ノハ……

○小河源一君(二百四十一番) 緊急動議、議事日程ノ變更

○議長(松田正久君) 總理大臣デ御答ガナケレバ、ツレマデノコトデア
○小河源一君(二百四十一番) 議事日程ノ變更、緊急動議

(「贊成」ト呼フ者アリ)

○小河源一君(二百四十一番) 定規ノ贊成ガアル

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 何ノ事件デスカ

○小河源一君(二百四十一番) 私ノ議事日程ノ變更ヲ求メマスノハ……

○議長(松田正久君) 事柄ヲ初メニ言ッテ——何事デアリマスカ

○小河源一君(二百四十一番) ツレバ今言フノデス、此議員中ニ露國間牒ノ疑アル
者ガゴザイマス(拍手スル者アリ)ツレ故ニ其調査ノタメニ調査委員ヲ設ケルコトニ付イ
テ、私ハ一應述ベタイコトガアル(「贊成々々」ト呼フ者アリ)宜シウゴザイマスカ

(「演壇ニ往キ給ヘ」ト呼フ者アリ)

○小河源一君(二百四十一番) 宜シイデスカ

(「登壇々々」登壇スベシト呼フ者アリ)

(「登壇」ト呼フ者アリ)

○小河源一君(二百四十一番) 諸君、私ハ誠ニ本議會ノ始メニ於キマシテ、甚ダ忌
ムベキ問題ヲ、持出サナケレバナラヌコトニナリマシタコトハ、誠ニ慨嘆ニ堪ヘナイデゴザ
イマス、過日諸君ノ御承知ノ如ク、或有志ノ者ヨリ活版刷ト致シマシテ、代議士秋山
定輔氏ノ露探タル覺書ト云フ書面ヲ配リマシタ、固ヨリ此書面ニ記載致シデアリマスル
事柄ハ、第一項ヨリ第六項マデ貫イテ、甚ダ驚クベキ所ノ事實ガ、記載セラレテアルノデ
ゴザイマス、勿論此事ノミヲ以テ、直ニ當議會ノ問題ト致ス譯デハナイノデ、吾々ハ斯様
ナコトガゴザイマスレバ、一日モ忽ニスベキモノデナイト考ヘマシタ故ニ、吾々同志ハ熱心ニ
此事ニ就イテ、各方面ニ調査ラシツ、アルノデゴザイマス、然ルニ此事項中ニ記載セラレ
タルコトハ、多クハ事實ナリト吾々確ムルニ——吾々ノ意志ヲ確ムルニ、近ヅキツ、アル
ノデゴザイマス、デ其事柄ハ諸君ノ既ニ御承知ノ通デゴザイマスカラ、一々私ハ茲ニ於テ
陳述ハシナイノデアル、尙吾々ノ調査致シマシタ結果ニ依リマスレバ、是ニ記載セラレテ
アルヨリ、尙以上ノ事實ヲ、數箇發見シテ居ルノデゴザイマス、此等ノ事柄ヲ確メマスレバ、
此判斷ニ就キマシテハ、更ニ諸君ガ採ル方針ガアルデゴザイマセウ、今日ハ未ダ私モ確
實ナリト云フコトハ、斷言致サナイケレドモ、大ニ疑フベキ所ノ程度ニアルト云フコトヲ、信
ズルノデアリマスルガ故ニ、此事實ヲ取調ヲ致シテ、而シテ後ノ處分ヲ致サナケレバナラヌ
デアル、今日ハ御承知ノ通ノ時局デゴザイマシテ、此場合ニ於テハ、議會ハ或ハ秘密會議

ヲ開カケレバナラヌカモ知レヌノデアル、然レニ其中ノ一員ニ、若シ露國ノ間諜トモ云フベキ者ガ、列シテ居リマシタナラバ、果シテ國家ニ如何ナル害ヲ及ボスデゴザイマセウ、故ニ私ハ此事實ヲ調査致シテ、其結果ニ依テハ、或ハ懲罰委員ニ附スルカ、若クハ或處決ヲ當人ニ對シテ求ムルカ、若クハ議院法ヲ改正致シマシテ、或ハ斯ノ如キ疑ヒアルモノハ、秘密會議ニ列スルコトガ出來ナイト云フ方法ヲ採ルカ、此等ノ事ハ後ノ問題ト致シマシテ、先ツ此事柄ガ事實ナルヤ否ヤト云フコトヲ、取調ベル所ノ調査委員十八名ヲ、議長ノ指名ニ於テ選定セラレテ、直チニ此調査ニ著手セラレンコトヲ希望スルノデアル、而シテ斯ク致シマシテ調査致シマシタナラバ、若シ此事が無根トナリマシレバ、或ハ秋山氏ノタメニモ名譽デアラウト考ヘルノデアル、或一面ヨリ書面ヲ配ラレマシテ、知名ノ士ガ兩名連署シテ書面ヲ配ラレテ居リマス、此書面ハ甚ダ此兩君ノタメニ惜ムノデアアル、所謂尾崎君犬養君ノタメニ惜ムノデアアル、何故ニ兩君ハ斯ノ如キ保證人ノ位置ニ、立タナケレバナラヌノデゴザイマセウカ、況ヤ其ノ中ニ記載セラレタコトハ、大ニ間違ガアル、現ニ炭田某ナル者ノ書面ガアツテ、其事モナイト云フコトデアル、是ハ甚ダ兩君ノタメニ惜ムト云フコトヲ、一言致シテ置キマス

〔異議ナシ異議ナシ〕又「贊成々々」ト呼フ者アリ

○議長(松田正久君) 諸君、茲ニ御諮リ致シマスガ、是ハ如何デゴザイマセウカ、本件ハ即チ議員ノ進退ニ關係スルコトデアラウデ見レバ、先決問題トシテ之ヲ決スルガ、至當デアルト考ヘル、因テ此事ヲ先決問題トシテ決スルヤ否ヤト云フコトヲ、初メニ決シタイノデアリマスカラ、諸君ノ御意見ヲ伺ヒマス

〔異議ナシ異議ナシ〕「贊成々々」ト呼フ者アリ

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ、先決問題トシテ議題ニ附シマス

秋山定輔君ニ關スル調査委員ヲ設クルノ緊急動議

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(松田正久君) 然レバ右ノ動議ハ委員九名ヲ設ケテ……

〔「十八名デス」又「贊成々々」ト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 十八名ノ委員ヲ設ケルト云フコトニ、御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシ〕「贊成々々」ト呼フ者アリ

○議長(松田正久君) 然ラバ十八名ノ委員ヲ議長ガ指名シテ審査セシムルト云フコトニ決定致シマス

〔神藤才一君〕質問ガアリマス「ト呼フ」

○議長(松田正久君) 議事日程ノ第一、即チ臨時事件費支辨ニ關スル法律案、第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

第一 臨時事件費支辨ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第一條 臨時事件費支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲ爲シ、國庫債券ヲ發行シ、特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及公債ヲ募集スルコトヲ得

第二條 一時借入金、國庫債券及公債ノ額ハ通シテ一億八千萬圓以內トス
本法及明治三十六年勅令第二百九十一號ニ依リ一時借入金、國庫債券及特別會計ニ屬スル資金繰替ヲ整理償還スル爲必要ナル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ募集スルコトヲ得

第三條 一時借入金、國庫債券及公債ノ利率、募集借入ノ方法規約、据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本法ニ依リテ發行スル國庫債券及公債ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外整理公債條例ヲ適用ス

〔神藤才一君〕議長「ト呼フ」

○議長(松田正久君) モウ議事日程ニ移リマシタ

○神藤才一君(六十七番) 議事日程ニ入リマシテモ、其前ノコトデゴザイマス、前ノ引續キデアリマス

○議長(松田正久君) 質問ハアリマセヌカ——質問ガナケレバ第二ノ日程ニ移リマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百七十四番) 第二ノ日程ハ、委員ヲ二十七名、議長ノ指名ヲ希望致シマス

〔異議ナシ〕「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(松田正久君) 恆松君ノ動議ニ御動議ガアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ其ノ通ニ決シマス——議事日程ノ第三ニ移リマス、朗讀ハ省略致シマス

第三 陸海軍ニ屬スル臨時事件費特別會計法案(政府提出) 第一讀會

陸海軍ニ屬スル臨時事件費ノ會計ハ一般ノ歳入歳出ト區分シ臨時事件ノ終局マテヲ一會計年度トシテ特別ニ之ヲ整理ス

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ第四ニ移リマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百七十四番) 是ハ九名ノ委員ヲ議長カラ指名ヲ願ヒマス

〔異議ナシ〕「ト呼フ者アリ」

○議長(松田正久君) 九名ノ委員ヲ議長ガ指名スルコトニ、御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(松田正久君) 然ラバ是モ決定致シマス

○恆松隆慶君(百七十四番) チョット動議ガゴザイマス、第五ヨリ第二十六マデハ、一括シテ議題トセラレンコトヲ望ミマス

〔贊成々々〕「ト呼フ者アリ」

○議長(松田正久君) 恆松隆慶君ノ動議ニ、御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(松田正久君) 然ラバ恆松君ノ動議ノ如ク、第五ヨリ第二十六ニ至ルマデ、一括シテ議事ニ附シマス、議案ノ朗讀ハ省略致シマス

第五 非常特別稅法案(政府提出) 第一讀會

非常特別稅法

第一條 臨時事件ニ因リ生シタル經費ヲ支辨スル爲本法ニ依リ地租、營業稅所得稅、酒稅、砂糖消費稅、醬油稅、登錄稅、取引所稅、特種免許稅、礦區稅及各種稅ノ輸入稅ヲ増徴シ鹽、毛織物、石油及絹布ニ消費稅ヲ課シ民事訴訟用印紙ヲ増徴セシム

第二條 地租、營業稅、所得稅、酒稅、砂糖消費稅、醬油稅、登錄稅、取引所稅、特種免許稅、礦區稅及糖菓類、食鹽、衣服及附屬品、石油、砂糖、糖蜜、糖水、絹布類、酒類、煙草類ノ輸入稅ハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ増徴ス

一 地租

市街宅地
郡村宅地
其ノ他ノ土地

二 營業稅

三 所得稅

四 酒稅

酒造稅法ニ依ル酒類

第一種
第二種
第三種

麥酒

酒精又ハ酒精含有飲料(原容量百分中純酒精ノ)

一石ニ付金五十錢
一石ニ付金五十錢
一石ニ付酒精分一度毎ニ金二錢五厘
一石ニ付金五十錢
一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金二錢五厘

沖繩縣酒類出港稅

沖繩縣酒類出港稅則第一條第一項ニ依リ課稅
スヘキ酒類
同第二項ニ依リ課稅スヘキ酒類
一石ニ付金五十錢
一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金二錢五厘

五 砂糖消費稅

第一種
第二種
第三種
第四種

六 醬油稅

醬油稅則第二條本文ニ依ル場合
醬油
醬油稅則第二條但書ニ依ル場合
諸味一石ニ付金五十錢
製成一石ニ付金五十錢
諸味一石ニ付金二十五錢
製成一石ニ付金二十五錢

七 登錄稅

不動產ニ關スル登記
法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得
法定ノ家督相續以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ
因ル所有權ノ取得
不動產價格千分ノ三
不動產價格千分ノ五

遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

其ノ他ノ原因ニ因ル所有權ノ取得
從來保有セル所有權ノ保存
華族世襲財產ノ創設
不動產價格千分ノ十
不動產價格千分ノ五
不動產價格千分ノ三
不動產價格千分ノ五

船舶ニ關スル登記

法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得
法定ノ家督相續以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ
因ル所有權ノ取得
遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得
船舶價格千分ノ二
船舶價格千分ノ五
船舶價格千分ノ五
船舶價格千分ノ二

其ノ他ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

從來保有セル所有權ノ保存
登錄稅法第六條及第六條ノ二ニ依ル登錄稅
課稅標準ノ千分比例ヲ以テ稅率ヲ定メタルモノ
課稅標準千分ノ一

一箇所毎ニ又ハ一件毎ニ稅額ヲ定メタルモノ

稅額金十圓ナルトキ
稅額金五圓ナルトキ
稅額金三圓ナルトキ
稅額金二圓ナルトキ
稅額金一圓ナルトキ
稅額金五十錢ナルトキ
稅額金二十錢
金二十五圓
金五十圓
金十圓
金二圓
金一圓
金五十錢
金二十錢

試掘

試掘增區及增減區ニ係ル訂正
採掘增區及增減區ニ係ル訂正
買受、讓受
金二十五圓
金五十圓
金十圓
金二圓
金一圓
金二十五圓

取引所稅

商品、有價證券
國債及地方債證券
賣買各約定代金高
萬分ノ三
萬分ノ二

狩獵免許稅

一等
二等
三等
金十圓
金五圓
金一圓

鑛區稅

鑛區稅
鑛區一千坪毎ニ一箇年金十錢
從價一割
從價五分

甲 菓子
乙 砂糖、糖蜜若クハ糖水ヲ以テ貯藏シタルモノ
從價一割
從價五分

四條ノ申立

證據調ノ申立
判決ノ送達ヲ求ムル申立
執行力アル正本ヲ求ムル申立
但シ此ノ正本數通ヲ求ムルトキハ每一通
ニ付
假差押又ハ假處分ノ申請
抗告

金五十錢

答辯書其ノ他特ニ揭ケサル申立又ハ申請
左ニ揭ケル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ
印紙ノ外金八十錢ノ印紙ヲ増貼スヘシ

金五錢

一 裁判上代位ノ申請
二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立
三 裁判上ノ代位、競賣法ニ依ル競賣又ハ不動産登記ニ關スル抗告
訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額金二十圓以下ナルトキハ第一項第五號ノ規
定ヲ適用セス

金五錢

本條第一項ノ規定ハ再審ヲ求ムルノ訴狀及原狀回復ノ申立ニ之ヲ準用ス
第五條 商事非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ノ書面ニハ商事非訟事件印紙
法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ
一 左ニ揭ケル申立
抗告

債權者ヨリ爲ス破產宣告ノ申立
支拂猶豫ノ申立
二 其ノ他ノ申立又ハ申請
破產手續ニ付テハ商事非訟事件印紙法第四條ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外
左ノ印紙ヲ増貼スヘシ

金五十錢

金五錢

財團ノ價格金五圓マテ

金十錢

同 十圓マテ

金二十錢

同 二十圓マテ

金四十錢

同 五十圓マテ

金六十錢

同 七十五圓マテ

金六十錢

同 百圓マテ

金一圓

同 二百五十圓マテ

金一圓

同 五百圓マテ

金四圓

同 七百五十圓マテ

金四圓

同 千圓マテ

金六圓

同 二千五百圓マテ

金十圓

同 五千圓マテ

金十圓

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ

金二圓

前項ノ規定ハ商事非訟事件印紙法第六條及第七條ノ場合ニ之ヲ準用ス
商事非訟事件印紙法第五條ノ規定ハ本條第二項ノ規定ニ依リ印紙ヲ増貼
スヘキ場合ニ之ヲ準用ス
第六條 左ニ揭ケルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ消費稅ヲ免除
ス

一 外國ニ輸出スル鹽、毛織物、石油又ハ絹布
製造者ノ自用ニ供スル鹽、毛織物、石油又ハ絹布
二 命令ヲ以テ定メタル業ニ使用スル鹽
三 魚類鹽藏用ニ供スル鹽
四 農業肥料用ニ供スル鹽
五 牧畜飼料用ニ供スル鹽
六 鹽、毛織物又ハ石油ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ鹽、
毛織物又ハ石油ヲ引取ル時引取人ヨリ之ヲ徵收ス
絹布消費稅ハ前月中ノ絹布小賣金額ニ依リ毎月絹布販賣者ヨリ之ヲ徵收
ス

第七條 鹽、毛織物又ハ石油ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ鹽、
毛織物又ハ石油ヲ引取ル時引取人ヨリ之ヲ徵收ス
絹布消費稅ハ前月中ノ絹布小賣金額ニ依リ毎月絹布販賣者ヨリ之ヲ徵收
ス

第八條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鹽、毛織物、石油及絹布消費稅ノ徵收
ヲ猶豫スルコトヲ得
第九條 製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際其ノ
價格ヲ政府ニ申告スヘシ
絹布販賣者ハ毎月十五日マテ前月中ノ絹布小賣金額ヲ政府ニ申告スヘ
シ

前二項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格又ハ金額ヲ不
相當ト認ムルトキハ政府ハ毛織物ノ價格ヲ評定シ又ハ絹布小賣金額ヲ算
定ス

毛織物引取人又ハ絹布販賣者前項ノ評定價格又ハ算定金額ニ不服ナルト
キハ毛織物引取人ハ即時、絹布販賣者ハ算定金額ノ通知ヲ受ケタル時ヨ
リ七日以内ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ毛織物ニ付テハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ、
絹布ニ付テハ命令ヲ以テ定メタル審査委員ノ審査ニ付シ其ノ意見ヲ徵シ
政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ係ル價格又ハ金額ト第三項ノ評定價格又ハ算定金額
トノ差カ第三項ノ評定價格又ハ算定金額ト前項ノ決定價格又ハ決定金額
トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

異議ノ申立アルモ政府ハ絹布消費稅ノ徵收ヲ猶豫セス
第十條 第六條又ハ第八條ニ該當スル場合ノ外消費稅納付前ニ於テハ製造
場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ鹽、毛織物又ハ石油ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條 鹽、毛織物又ハ石油製造者ハ第六條又ハ第八條ニ該當スル場合
ノ外消費稅納付前ニ於テ鹽、毛織物又ハ石油ヲ他ニ引渡シ又ハ製造場外
ニ移出スルコトヲ得ス

第十二條 自用ニ供スルモノヲ除ク外鹽、毛織物、石油又ハ絹布ヲ製造セム
トスル者ハ政府ニ申告スヘシ店鋪ヲ有スルト否トニ拘ラス絹布ノ販賣ヲ
爲サムトスル者亦同シ

第十三條 鹽、毛織物、石油又ハ絹布製造者ハ其ノ製造場ニ於テ鹽、毛織物、
石油又ハ絹布ノ賣買業ヲ兼營スルコトヲ得ス
第十四條 鹽、毛織物、石油又ハ絹布ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ鹽、毛
織物、石油又ハ絹布ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ
絹布販賣者ハ絹布ノ卸賣及小賣ヲ區別シ別箇ノ帳簿ニ記載スルコトヲ要
ス

第十五條 收稅官吏ハ鹽、毛織物、石油又ハ絹布ノ製造場又ハ販賣場ニ立入り鹽、毛織物、石油又ハ絹布、其ノ原料、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第十六條 收稅官吏ハ運搬中ニ在ル鹽、毛織物、石油又ハ絹布ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス一鹽、毛織物、石油又ハ絹布ノ製造者又ハ販賣者鹽、毛織物、石油又ハ絹布ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪併發ノ例ヲ用井ス

第二十條 鹽、毛織物、石油又ハ絹布ノ製造者、販賣者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 鹽、毛織物、石油又ハ絹布ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十二條 臺灣ヨリ移入シタル鹽ニハ本法ニ準シテ消費稅ヲ課ス命令ヲ以テ指定スル港灣ニ由ルニ非サレハ臺灣ヨリ移入シタル鹽ヲ陸揚スルコトヲ得ス

臺灣ヨリ鹽ヲ移入シタルトキハ陸揚前政府ニ申告スヘシ

第二十三條 北海、道、府、縣、市、町、村其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ地租

附加稅又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課稅スルコトヲ得ス

一 北海道、府、縣、北海道ノ區、二級町村及二級町村、沖繩縣ノ區及間切島

附加稅ノミヲ課スルコトキ

段別割ノミヲ課スルコトキ

附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テ段別割ノ總額ハ總段別地租額ノ十分ノ五ト附加稅總額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二 其ノ他ノ公共團體

附加稅ノミヲ課スルコトキ

段別割ノミヲ課スルコトキ

附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テ段別割ノ總額ハ總段別地租額ノ十分ノ三ト附加稅總額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

北海、道、府、縣、市、町、村其ノ他ノ公共團體ハ營業稅又ハ所得稅百分ノ三十ヲ超過スル附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

第二條ニ依リ地租、營業稅及所得稅ノ増徴額ニ對シテハ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

府縣費ヲ市町村ニ分賦シタル場合ニ於テハ其ノ金額以內ニ限リ市町村ハ內務大臣ノ許可ヲ受ケ第一項又ハ第二項ノ制限ヲ超過シテ附加稅又ハ段別割ヲ課スルコトヲ得

明治三十六年度以前ニ起シタル負債ノ元金償還及利子拂拂ノ爲若ハ非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要シ又ハ其ノ費用ノ分賦ヲ受ケタル場合ニ於テ特ニ內務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第一項又ハ第二項ノ制限ヲ超過シテ附加稅又ハ段別割ヲ課スルコトヲ得

北海、道、府、縣、市、町、村其ノ他ノ公共團體ハ營業稅又ハ所得稅百分ノ三十ヲ超過スル附加稅ヲ課スルコトヲ得

第一項及第二項ノ制限ハ特ニ賦課率ヲ定メタル特別法令ノ適用ヲ妨ケス

第二十四條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ輸入稅ニ關シテハ本法發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

第二十五條 鹽、毛織物、石油又ハ絹布ノ製造者、販賣者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 第一種及第二種砂糖、石油及外國ヨリ輸入スル鹽ニ付テハ本法施行後六箇月ヲ經過シタルトキハ本法ニ依リ消費稅ヲ課セス

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

官報號外 明治三十七年三月二十四日 衆議院議事速記第二號 議事日程第五乃至第二十六ノ件 一五

第七 醫藥用工業用酒精戻稅法中改正法律案(政府 第一讀會)

第一條中「若ハ輸入稅」ヲ削リ「醫藥用又ハ工業」ヲ「命令ノ定ムル所ニ依リ命令ヲ以テ定メタル」ニ改ム
第二條 前條ノ酒精ニシテ工業用ニ供スルモノニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ變性ヲ命スルコトヲ得
第三條中「又ハ輸入稅」ヲ削ル
第四條 削除

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前ニ於テ造石稅又ハ輸入稅ノ賦課ヲ受ケタル酒精ノ税金下戻ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス但シ本法施行後六箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第九 明治三十四年法律第十號中改正法律案(政府 第一讀會)

明治三十四年法律第十號中左ノ通改正ス

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム
命令ノ定ムル所ニ依リ造石稅ヲ課セラレタル酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒稅ヲ課セラレタル麥酒ヲ外國ニ輸出シタル者ハ造石稅又ハ麥酒稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得
第二條第三號ヲ左ノ如ク改ム
三 外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類但シ命令ヲ以テ之ヲ限定スルコトヲ得

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行シ同日以後製成シタル酒精、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒ニ之ヲ適用ス
造石稅又ハ麥酒稅納付済ノ酒精、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒ニシテ本法施行前ニ製成シタルモノヲ外國ニ輸出シタル者ニハ仍舊法ヲ適用ス

第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十一 沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案(政府提 第一讀會)

沖繩縣酒類出港稅則中左ノ通改正ス
第一條中「移出スルトキハ」ノ下ニ「旅客ノ攜帶品タルト否トヲ問ハス」ヲ加フ
第二條 命令ヲ以テ定ムル港灣ニ由ルニ非サレハ沖繩縣ニ於テ製造シタル清酒濁酒白酒味淋又ハ燒酎ヲ帝國内ノ他ノ地方ニ移出スルコトヲ得ス
第三條中「船政所」ヲ削ル
第四條第一項中「船政所」ヲ「稅務署」ニ改メ第二項ヲ削ル
附則
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十三 醬油稅則中改正法律案(政府提出) 第一讀會

醬油稅則中左ノ通改正ス
第一條第二項ヲ削ル
第三條 削除
第十五條 削除
第十九條中「第一條第二項ニ該當セサル者ニシテ」ヲ削ル
第二十一條中「第十五條ノ申告ヲ爲ササル者」ヲ削ル
第二十三條 削除
第二十九條 削除

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十五 家用醬油稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

家用醬油稅法中左ノ通改正ス
第三條 家用醬油製造人ハ其ノ製造見積高ニ依リ毎年左ノ製造稅ヲ納ム

- 第一種 一石未満 金五十錢
- 第二種 二石未満 金一圓
- 第三種 三石未満 金二圓
- 第四種 四石未満 金三圓
- 第五種 五石以下 金四圓

第十一條 左ニ記載スル者ニハ本法ヲ適用セス

- 一 醬油製造營業人、醬油請賣人
 - 二 料理店、飲食店、旅人宿營業人
 - 三 前二號ノ者ト同居スル者
- 本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者前項各號ニ該當スルニ至リタルトキハ本法ニ依リ免許ヲ以テ醬油稅則ニ依リ免許ト看做シ以後製造ニ係ル醬油ニハ同稅則ヲ適用ス但シ其ノ年ノ製造稅ハ之ヲ免除セス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
醬油稅則ニ依リ家用醬油製造ノ申告ヲ爲シタル者ハ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十七 關稅定率法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

關稅定率法中左ノ通改正ス
第五條第一項第十號但書中「飲料ヲ除ク」ヲ「飲料、食鹽及絹布類ヲ除ク」ニ改ム
附屬輸入稅表中左ノ通改正ス
六九ノ一 各種變性アルコール 每リートル 〇、四二〇
六九ノ二 各種酒精劑(阿片丁幾ヲ除ク) 每リートル 〇、四二〇

附則
本法ハ發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十九 輸入原料砂糖戻稅法廢止法律案(政府提出) 第一讀會
輸入原料砂糖戻稅法ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
精製糖又ハ氷砂糖ヲ製造スル輸入原料砂糖ニシテ本法施行前ニ政府ノ承認ヲ得タルモノニ關シテハ仍輸入原料砂糖戻稅法ヲ適用ス

第二十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十一 間接國稅犯則者處分法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

間接國稅犯則者處分法中左ノ通改正ス
第十一條 犯則事件ノ證據集取ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局又ハ稅務署ノ收稅官吏之ヲ爲ス

稅務監督局收稅官吏ノ集取シタル證據ハ之ヲ所轄稅務署收稅官吏ニ引繼クヘシ
同一犯則事件ニ付數箇所ニ於テ發見セラレタル時ハ各發見地ニ於テ集取セラレタル證據ハ之ヲ最初ノ發見地所轄稅務署ノ收稅官吏ニ引繼クヘシ

第十二條 中「所屬稅務署」ヲ「所屬稅務監督局又ハ所屬稅務署」ニ「他ノ稅務署」ヲ「他ノ稅務監督局又ハ稅務署」ニ改ム
第七條第十三條第十四條第十七條第十九條中「稅務管理局長」ヲ「稅務署長」ニ改ム

第二十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十三 地租徵收ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第一條 地租ヲ課スル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徵收セス

地租ヲ課セサル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徵收ス但シ地租ヲ課セサル土地ニシテ其ノ年經過後田地トナリタルトキハ其ノ年分地租ノ翌年ニ於ケル納期ニ於テハ地租ヲ徵收セス

第二條 地租ハ各納稅人ニ付同一市町村內ニ於ケル同一地目ノ地價合計額ニ依リ之ヲ算出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地目ヲ異ニスルモ地租ノ納期ヲ同フスル土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做スコトヲ得

第三條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ開始前十五日マデニ地價及地租ノ總額並ニ其ノ各納稅人ニ於ケル納額ヲ所轄收稅官廳ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラス
納期開始前十五日ヨリ納期開始マデニ地租額ニ異動ヲ生シタルトキハ其

ノ異動額ヲ所轄收稅官廳ニ報告スヘシ
第四條 市町村以外ノ公共團體又ハ戶長カ地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 大藏大臣ハ隨時稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ市町村其ノ他ノ公共團體又ハ戶長役場ニ於ケル國稅諸帳簿ノ整否ヲ監督セシムヘシ

附則
第六條 本法ハ明治三十七年分地租ヨリ之ヲ適用ス

第二十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十五 沖繩縣滯納舊租延納法案(政府提出) 第一讀會

沖繩縣ニ於ケル明治三十五年以前ノ地租ニシテ非常特別稅法施行ノ際滯納ニ係ルモノハ同法施行中其ノ徵收ヲ爲サス
前項ノ地租ハ非常特別稅法廢止ノ年ノ翌年ヨリ十年間ニ平分シテ之ヲ徵收ス

第二十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

〇恆松隆慶君(百七十四番) 政府ノ説明ヲ略セラレマシテ、是ハ四十五名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス
〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

〇議長(松田正久君) 恆松君ノ動議ニ、御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

〇議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ其ノ通決シマス議事日程第二十七ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ヲ省略致シマス

第二十七 煙草專賣法案(政府提出)

煙草專賣法 第一讀會

第一條 煙草ノ製造ハ政府ニ專屬ス
第二條 煙草ハ政府及政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス

第三條 煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ耕作スルコトヲ得ス
第四條 煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ政府之ヲ收納ス

第五條 煙草ノ耕作區域ハ政府之ヲ定ム
第六條 政府ハ毎年耕作スヘキ煙草ノ種類、耕作段別及葉煙草ノ賠償價格ヲ定メ豫メ之ヲ公示ス

第七條 煙草ヲ耕作セムトスル者ハ毎年煙草苗床ノ位置及坪數、煙草耕作地ノ位置及段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第八條 相續ニ因ルノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ
相續ニ因リ煙草ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ政府ニ届出ツヘシ

第九條 煙草耕作者ニ非サレハ煙草苗ヲ育成スルコトヲ得ス

煙草苗ノ讓渡及讓受ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クヘシ
第十條 煙草耕作者ハ政府ノ定ムル方法及手續ニ依リ其ノ耕作ヲ完成スル義務ヲ負フ

第十一條 政府ハ收穫前ニ於テ葉煙草ノ收穫量目又ハ葉數ヲ査定ス
前項査定ノ場合ニ於テハ煙草耕作者ハ之ニ立會フヘシ若シ立會ハサルトキハ其ノ査定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十二條 煙草耕作者前條ノ量目又ハ葉數ノ査定ニ不服ナルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
異議ノ申立アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府ノヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ量目又ハ葉數ト前項決定額トノ差カ前條ノ査定額ト前項決定額トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ異議申立人ノ負擔トス
第十三條 煙草耕作者ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非サレハ第十一條ノ査定前ニ於テ葉煙草ヲ採取シ又ハ幹根ヲ拔除スルコトヲ得ス第十二條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シタル者其ノ決定前ニ於テ亦同シ

第十四條 煙草耕作者一番葉ノ收穫ヲ終リタルトキハ直ニ其ノ幹根ヲ拔除シ其ノ幹ニ附著スル葉煙草ハ之ヲ廢棄スヘシ
種子ノ採取又ハ二番葉ノ收穫ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ許可ヲ受クヘシ前項ノ場合ニ於テ採取又ハ收穫ヲ終リタルトキハ第一項ノ處置ヲ爲スヘシ

第十五條 煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ乾燥調理ノ後政府ニ納付スヘシ
納付ノ期日及場所ハ政府ノヲ定ム

煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ニシテ政府ノ收納ニ適セサルモノハ政府ノ承認ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ
第十六條 煙草耕作者ノ納付シタル葉煙草ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシメ其ノ等級ニ依リ賠償金ヲ交付ス

煙草耕作者前項ノ鑑定ニ不服ナルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
再鑑定申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ等級ト再鑑定等級トノ差カ第一項ノ鑑定等級ト再鑑定等級トノ差ヨリ大ナルトキハ再鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

再鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十七條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ査定若ハ決定シタル量目又ハ葉數以上ノ葉煙草ヲ納付セサルトキハ政府ハ其ノ不足額ニ對シ第十八條第二項ノ規定ニ準シテ算定シタル金額ノ三倍以下ヲ納付セシムルコトヲ得

第十八條 煙草耕作者私ニ耕作段別ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ減作地又ハ廢作地ニ生産スヘキ葉煙草ノ價格ニ相當スル金額ヲ納付セシムルコトヲ得
前項葉煙草ノ價格ハ其ノ年ニ於ケル近傍類似煙草耕作地ノ葉煙草生産額

及之ニ對スル賠償金額ヲ標準トシ之ヲ算定ス

第十九條 煙草耕作者其ノ耕作段別ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ耕作ヲ承繼スル者ナキトキハ政府ハ其ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ヲ廢棄セシムルコトヲ得
第二十條 煙草耕作者ノ葉煙草ハ其ノ耕作地、乾燥場、藏置場又ハ其ノ收納官署ノ外他ニ之ヲ運送スルコトヲ得ス

政府ハ必要ト認ムルトキハ葉煙草運送ノ通路及時間ヲ指定スルコトヲ得
第二十一條 公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ試作ニ關シテハ第四條第七條第九條第十五條第十六條第一項及第十九條ノ規定ヲ準用ス
第二十二條 製造煙草ハ政府又ハ政府ノ指定シタル煙草元賣捌人若ハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

煙草賣捌人及煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テ之ヲ定ム
第二十三條 煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テ之ヲ定ム
煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第二十四條 煙草賣捌人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裹ヲ開披シ若ハ之ヲ改裝シ又ハ包裹ノ破損シタル製造煙草ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二十五條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ政府ハ特ニ定メタル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スコトヲ得
前項煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ調製シ其ノ營業ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

輸出ニ供スル煙草ヲ製造セムトスル者ノ爲政府ハ一定ノ地域ニ於テ煙草自由倉庫ヲ設置シ又ハ其ノ設置ヲ特許スルコトヲ得
煙草自由倉庫及其ノ特許ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 前條ニ依リ輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出免狀ニ外國仕向港ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添ヘ政府ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ前項ノ免狀及書類ヲ差出ササルトキハ政府ハ葉煙草ニ付テハ第二十九條製造煙草ニ付テハ第三十條ノ規定ニ依リ相當金額ヲ納付セシム

第二十七條 輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ハ輸出前之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得但シ其ノ使用ニ適セサルニ至リタルモノハ政府ノ許可ヲ受ケテ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第二十八條 輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ノ輸出ヲ廢止シタルトキ又ハ買受ノ日ヨリ一箇年ヲ過キ之ヲ輸出セサルトキハ其ノ使用ニ適スルモノニ限リ政府ノヲ收納シ其ノ他ハ之ヲ廢棄セシム

前項ノ收納ヲ爲ストキハ鑑定人ヲシテ鑑定セシメ賠償金ヲ交付ス但シ其ノ賠償金ハ第二十五條ニ依リ賣渡價格ニ超過スルコトヲ得ス

第二十九條 本法ノ規定ニ依リ輸出シ、廢棄シ及收納セラレタル葉煙草並現在葉煙草ノ總量目カ政府ヨリ買受ケタル葉煙草ノ總量目ニ比シ正當ノ事由ナクシテ不足シタルトキハ政府ハ輸出者ヲシテ其ノ不足額ニ對シ第

第二十五條ノ賣渡價格ニ相當スル金額ノ四倍以下ヲ納付セシム
第三十條 本法ノ規定ニ依リ輸出シ、廢棄シ及收納セラレタル製造煙草
竝現在製造煙草ノ總量目カ政府ヨリ買受ケタル製造煙草ノ總量目ニ比シ
正當ノ事由ナクシテ不足シタルトキハ政府ハ輸出者ヲシテ其ノ不足額ニ
對シ第二十三條ノ賣渡價格ト第二十五條ノ賣渡價格トノ差額ニ相當スル
金額ノ二倍以下ヲ納付セシム
第三十一條 政府ハ標本ニ供スルモノニ限リ葉煙草ヲ交付シ又ハ煙草ノ輸
入ヲ許可スルコトヲ得
標本ニ供スル煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケ標本トシテ他ニ讓渡シ又ハ試驗ノ
用ニ供シ又ハ廢棄スルノ外之ヲ處分スルコトヲ得
第三十二條 健康上若ハ習慣上缺クヘカラサル製造煙草ハ自用ニ供スルモ
ノニ限リ自用者ニ於テ政府ノ許可ヲ受ケ之ヲ輸入スルコトヲ得
第三十三條 輸出ノ爲買受ケタル煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル場所ニ非サ
レハ之ヲ藏置スルコトヲ得
第三十四條 何人ト雖本法ニ於テ認メタル場合ノ外葉煙草、政府ノ證票ヲ
附セサル製造煙草又ハ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シ、讓渡シ
若ハ讓受クルコトヲ得
前項ノ物件ハ本法ニ依リ沒收スル場合ノ外政府ニ於テ之ヲ處分ス
第三十五條 何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造シ又
ハ販賣スルコトヲ得
第三十六條 煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ
非サレハ之ヲ製作シ、販賣シ又ハ藏置スルコトヲ得
第三十七條 煙草耕作者、試作者又ハ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製
作者、販賣者若ハ藏置者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル
トキハ政府ハ耕作、試作、藏置又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得
第三十八條 政府ハ煙草ノ苗床、耕作地、試作地、乾燥場、藏置場又ハ煙草
苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ノ所在ト認ムル場所又ハ煙草苗、煙
草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ヲ檢查シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコ
トヲ得
當該官吏ハ前項ノ檢查ニ際シ必要ト認ムルトキハ關係人ヲシテ之ニ立會
ハシムルコトヲ得
第三十九條 行政執行ノ手續ニ依リ費用ヲ納付セシムル場合ニ於テ義務者
ニ交付スヘキ金額アルトキハ之ヲ差引スルコトヲ得
第四十條 本法ノ規定ニ依リ納付セシムヘキ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅
徵收法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得
第四十一條 第三條又ハ第九條第一項ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以
下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス許可ヲ受ケ
スシテ試作ヲ爲シタル者亦同シ
第四十二條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル土地ニ煙草ヲ耕作シ若ハ煙草苗ヲ
育成シ又ハ許可ヲ受ケサル種類ノ煙草ヲ耕作シ又ハ許可ヲ受ケスシテ煙
草苗ヲ讓渡シ若ハ讓受ケタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ
犯罪ニ係ル煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第四十三條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル場所ニ葉煙草ヲ乾燥シ又ハ藏置シ
タルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ
沒收ス
情ヲ知リテ前項ノ場所ヲ供與シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第四十四條 第十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其
ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス
第四十五條 第十四條及第十九條ニ依リ葉煙草ヲ廢棄スヘキ者其ノ葉煙草
ヲ收穫シ又ハ種子ヲ採取シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其
ノ犯罪ニ係ル葉煙草又ハ種子ハ之ヲ沒收ス
第四十六條 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ依ルニ非スシテ第二十條第
一項ニ違反シ又ハ政府ノ指定シタル通路若ハ時間ニ依ラズシテ葉煙草ヲ
運送シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草
ハ沒收ス
第四十七條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル納付期日ニ
葉煙草ヲ納付セサルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第四十八條 政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費シ又ハ隱蔽シ
タル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ
沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ
情ヲ知リテ葉煙草隱蔽ノ場所ヲ供與シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰
金ニ處ス
第四十九條 煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲
シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ
之ヲ沒收ス
第五十條 第二十三條又ハ第二十四條ニ違反シタル者ハ五圓以上三百圓
以下ノ罰金ニ處ス
第五十一條 煙草輸出者帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記
載ヲ爲シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第五十二條 第二十七條ニ違反シタル者ハ三十圓以上十圓以下ノ罰金ニ處
シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ
第五十三條 第三十一條第二項ニ違反シタル者ハ二十圓以上十圓以下ノ罰
金ニ處ス其ノ煙草ヲ讓受ケタル者亦同シ
第五十四條 第三十二條ニ依リ輸入シタル煙草ヲ他ニ讓渡シタル者ハ五圓
以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス
第五十五條 第三十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
情ヲ知リテ藏置ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ
第五十六條 許可ヲ受ケサル者ノ耕作若ハ試作シタル葉煙草又ハ煙草耕作
者、試作者ニ非サル者ノ育成シタル煙草苗又ハ權利者ノ不明ナル葉煙草
若ハ葉煙草若ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス
係ル葉煙草若ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス
第五十七條 第三十四條第一項ニ違反シテ製造煙草ヲ所持シ、讓渡シ又ハ
讓受ケタル者ハ煙草賣捌人ニ在リテハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其
ノ他ノ者ニ在リテハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製
造煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十八條 私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第五十九條 第三十五條ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物品並其ノ原料製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十條 第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十一條 本法ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニシテ他ニ所有者アル爲沒收スルコトヲ得サルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第六十二條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第六十三條 煙草耕作者試作者煙草賣捌人煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第六十五條 煙草耕作者試作者煙草賣捌人煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者ハ其ノ代理人戶主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第六十六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第六十七條 問接國稅犯則者處分法ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ之ヲ準用ス但シ同法ニ定メタル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第六十八條 本法ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條第二項及第七十三條ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際ニ於ケル煙草製造業者ハ明治三十八年三月三十一日迄刻煙草ノ製造ニ限リ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

前項刻煙草ノ製造及其ノ原料ニ供スル葉煙草ノ賣買ニ關シテハ明治三十八年三月三十一日迄本法ノ規定ヲ適用セス仍葉煙草專賣法ヲ適用ス

第六十九條 本法施行ノ際ニ於ケル葉煙草耕作者ハ本法ニ依ル煙草耕作者ト看做ス

第七十條 左記ノ物件ハ政府之ヲ徵收シ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

一 明治三十七年六月三十日ニ現在スル煙草製造專用ノ器具機械及卷紙但シ刻煙草製造專用ノモノヲ除ク

二 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル刻煙草製造專用ノ器具機械

三 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル葉煙草

第七十一條 本法施行ノ際政府ノ保管ニ係ル輸出葉煙草ニ關シテハ本法施行後ト雖仍葉煙草專賣法ヲ適用ス

第七十二條 明治三十七年六月三十日ニ現在スル刻煙草以外ノ煙草製造業者ノ所有ニ係ル葉煙草ハ明治三十八年三月三十一日迄ハ刻煙草製造業者若ハ葉煙草賣買業者ニ限リ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ所有スルコトヲ得但シ外國產葉煙草ニ限リ明治三十七年七月二十日迄ニ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第七十三條 本法發布ノ際ニ現在スル煙草製造專用ノ建物其ノ敷地及其ノ製造場備附ノ煙草製造專用ノ器具機械ハ政府ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

政府ハ本法發布ノ後煙草製造業者ノ營業場ニ就キ前項ニ依リ徵收スヘキ物件ヲ調査シ徵收目錄ヲ調成ス

徵收目錄ハ本法發布後六十日以内ニ之ヲ所有者ニ告知ス

前項ノ告知後ハ所有者ハ政府ノ承認ヲ受クルニ非サレハ徵收目錄ニ記載シタル物件ヲ處分スルコトヲ得ス

第七十四條 煙草製造業者ノ所有ニ係ル煙草ノ製造及裝置ニ使用スヘキ物件並其ノ現ニ使用スル煙草製造及裝置用器具機械ニシテ第七十條ノ規定ニ該當セサルモノハ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得但シ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年六月三十日ニ現在スルモノニ限リ刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年三月三十一日ニ現在スルモノニ限ル

前項ニ依リ買上ヲ請求シ得ヘキ物件ノ種類數量並器具機械ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十五條 政府ハ煙草製造業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ其ノ煙草製造營業ヨリ生スル所得金額ノ三箇年分ニ相當スル金額ヲ交付ス但シ煙草製造專用ノ建物及其ノ敷地ヲ所有スル者ニシテ其ノ建物及敷地ノ全部ノ徵收又ハ買上ヲ受ケサルモノニ對シテハ尙所得金ノ一箇年分ニ相當スル金額ノ二分ノ一ヲ増給ス

煙草製造業者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレタルモノニ對シテハ前項ノ規定ヲ適用セス

第一項ノ所得金額ハ明治三十四年ヨリ明治三十六年ニ至ル三箇年間所得ノ平均高ニ依リ明治三十四年二月以後ニ其ノ營業ヲ開始シタル者ハ明治三十五年ヨリ明治三十六年ニ至ル二箇年間所得ノ平均高ニ依リ明治三十五年二月以後ニ其ノ營業ヲ開始シタル者ハ明治三十六年ノ所得高ニ依ル

第一項ニ煙草製造業者トアルハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十七年六月三十日ニ至ル迄刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十八

年三月三十一日ニ至ル迄其ノ營業ヲ繼續シタルモノニ限ル但シ家督相續人カ被相續人ノ營業ミタル煙草製造業ヲ繼續シタル場合ニ於テ被相續人ノ營業期間ハ家督相續人ノ營業期間ト看做ス

第七十六條 第七十五條第一項ノ所得金額ハ所得稅法ニ依リ決定シタル所得金額ニ依ル

所得稅法ニ依リ決定シタル所得金額中煙草製造業以外ヨリ生シタル所得ヲ包含スルトキハ政府ハ所得金額決定ノ參考ニ供シタル書類其ノ他政府ニ於テ確實ナリト認ムル書類ニ依リ其ノ煙草製造業ヨリ生スル所得金額ヲ決定ス但シ其ノ金額ハ所得稅法ニ依リ決定シタル所得金額ニ超過スルコトヲ得ス

前項ニ依リ決定セラレタル所得金額カ二百圓未満ナル者及所得稅ヲ課セラレサル煙草製造業者ニ付テハ第七十五條第一項ノ交付金額ハ六百圓トス

明治三十六年十月以後ノ所得ノ追加申告及所得稅法第四十六條ノ自首ニ係ル所得金額ハ第七十五條第一項ノ所得金額中ニ加ヘス

第七十七條 第七十三條ノ補償價格及第七十二條、第七十四條ノ買上價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議整ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ政府ノ決定ニ依ル

前項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ十日以内ニ其ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ更ニ鑑定人ノ意見ヲ徵シ之ヲ裁定ス

鑑定人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十八條 第七十條第一號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十七年七月五日迄ニ、同條第二號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ藏置ニ關シテハ第三十六條及第六十條ヲ適用ス

前項ニ依リ申告ヲ爲ササル物件ノ藏置ニ關シテハ之カ徵收ヲ終ル迄第三十六條ヲ適用セス

第七十九條 第七十條第三號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ藏置ニ關シテハ第五十六條ノ例ニ依リ處分ス

第八十條 第七十四條ニ依ル物件買上ノ請求ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年七月五日迄ニ、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年四月五日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第八十一條 第七十五條ニ依ル交付金ノ請求ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年九月三十日迄ニ、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年六月三十日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第八十二條 本法施行ノ際現在スル製造煙草又ハ刻煙草製造業者ノ明治三十八年三月三十一日迄ニ製造シタル刻煙草ハ本法ノ規定ニ依ラス之ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得

政府ハ必要ト認メタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造煙草ニ包裹ヲ施サシメ竝一定ノ證票ヲ貼付セシムルコトヲ得

前項ニ依ル命令ニ違反シ包裹ヲ施サス又ハ證票ヲ貼附セサル製造煙草ニ關シテハ第三十四條及第五十七條ヲ準用ス

第八十三條 煙草製造業者又ハ製造煙草ヲ販賣スル者ハ明治三十七年六月三十日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル刻煙草以外ノ製造煙草ノ種類數量ヲ明治三十七年七月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

刻煙草製造業者ハ明治三十八年三月三十一日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル刻煙草ノ種類數量ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

第八十四條 本法施行後政府ノ賣渡ササル製造煙草ヲ販賣スル者ハ營業ニ關スル帳簿ヲ調製シ明治三十七年七月以後毎月末日ニ於ケル製造煙草ノ種類數量及其ノ月ノ受拂高ヲ翌月五日迄ニ政府ニ申告スヘシ

第八十五條 第八十三條及第八十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 葉煙草專賣法ニ違反シタル者ニハ本法施行後ト雖仍同法ヲ適用ス

第八十七條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル島嶼ニハ之ヲ施行セス

本法ヲ施行セサル地ト本法施行地トノ間ニ於ケル煙草ノ移入移出ニ關シテハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ノ外本法ヲ施行セサル地ヨリ煙草ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第八十八條 明治三十八年ニ於テハ煙草製造業者及葉煙草賣買業者ニ係ル免許料ハ之ヲ徵收セス

明治三十七年ニ於ケル刻煙草以外ノ製造業者ニ係ル免許料ハ其ノ十二分ノ六ヲ還付ス

第八十九條 第七十條、第七十三條ノ補償金、第七十二條、第七十四條ノ買上金及第七十五條ノ交付金ニ充ツル爲政府ハ國庫債券ヲ發行スルコトヲ得

第七十五條ノ交付金ハ國庫債券ヲ以テ之ヲ給付ス但シ五十圓未満ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ給付ス

第七十條、第七十三條ノ補償金及第七十二條、第七十四條ノ買上金ハ本人ノ請求ニ依リ國庫債券ヲ以テ給付スルコトアルヘシ

國庫債券ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ附シ發行ノ年ヨリ七箇年以内ニ之ヲ償還ス

國庫債券ニ關シテハ本條ニ規定スルモノノ外整理公債條例ニ準據ス

○議長(松田正久君) 御質問ガナケレバ第二十八ニ移リマス

第二十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百七十四番) 是ハ煙草問題アリマスガ、二十七名ノ特別委員ヲ、議長カラ指名セラレシコトヲ望ミマス

(「贊成タマ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 恆松君ノ勸議デ、二十七名ノ議長指名ノ委員ニ付託スルト云フコトニ、御異議アリマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ其通決定致シマス——議事日程第二十九臺灣事業公債法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

第二十九 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

臺灣事業公債法中左ノ通改正ス
第一條中「三千五百萬圓」ヲ「四千百萬圓」ニ改メ左ノ一號ヲ加フ

五 大租權整理

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御質問ガナケレバ第三十委員ノ選舉ニ移リマス

第三十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百七十四番) 是ハ九名ノ特別委員ヲ、議長カラ指名ヲ願ヒマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 恆松君ノ動議ニ御異議ガナケレバ其通決定致シマス、議事日程ノ第三十一ニ移リマス、朗讀ハ省略致シマス

第三十一 渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律案 第一讀會

第一條 栃木縣足利郡、安蘇郡、下都賀郡、群馬縣山田郡、新田郡、邑樂郡、茨城縣猿島郡、埼玉縣北埼玉郡ニ於ケル田畑ニシテ銅分ノ爲土壤變質シタルモノハ本法ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

第二條 前條ノ土地ニ付テハ被害ノ情況ニ依リ政府ノ定メタル等級ニ從ヒ左ノ割合ヲ以テ現在地價ヲ低減シテ其ノ地價ヲ修正ス

一	等	八割
二	等	六割
三	等	五割
四	等	四割五分
五	等	四割
六	等	三割五分
七	等	三割
八	等	二割五分
九	等	二割
十	等	一割五分

附則

本法ニ依リ修正シタル地價ハ明治三十七年分以後ノ地租ニ付之ヲ適用ス但シ免租年期ヲ有スル土地ニ付テハ免租年期明ニ至リ之ヲ適用ス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御質問ガナケレバ第三十二ノ日程ニ移リマス

第三十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百七十四番) 是モ九名ノ特別委員ヲ、議長カラ指名ヲ願ヒマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 然ラバ是モ議長指名ノ、九名ノ委員ニ付託スルコトニ決シマス——次ニ第三十三ノ日程ニ移リマス、朗讀ハ省略致シマス

第三十三 記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル 第一讀會

民法第三百六十四條第一項ノ規定ハ記名ノ國債ニハ之ヲ適用セス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御質問ガナケレバ第三十四ノ日程ニ移リマス

第三十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百七十四番) 是モ九名ノ特別委員ヲ、議長カラ指名ヲ願ヒマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 是モ議長指名ノ、九名ノ委員ニ付託スルコトニ決定致シマス、第三十五ノ日程ニ移リマス、議案朗讀ハ省略致シマス

第三十五 貯蓄勸業債券法案(政府提出) 第一讀會

貯蓄勸業債券法

第一條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ内貯蓄勸業債券ヲ發行スルコトヲ得

第二條 貯蓄勸業債券ハ無記名利札附ニシテ券面金額ヲ五圓以上トス

第三條 貯蓄勸業債券ハ發行ノ翌年ヨリ二十箇年以内ニ毎年一回以上抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

貯蓄勸業債券ヲ償還スル場合ニハ割増金ヲ附與スルコトヲ得但シ其ノ方法及金額ニ關シテハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 貯蓄勸業債券ニ附スヘキ利子ノ割合ハ一箇年百分ノ四以内トシ毎年一回之ヲ仕拂フモノトス

第五條 貯蓄勸業債券ニハ商法第九十九條乃至第二百五條ヲ適用セス

第六條 貯蓄勸業債券及其ノ引換證ニハ印紙稅ヲ免除ス

第七條 日本勸業銀行ハ貯蓄勸業債券ノ募集金ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第八條 貯蓄勸業債券ニハ日本勸業銀行法第四十條及第四十一條ヲ準用ス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御質問ガナケレバ第三十六ニ移リマス

第三十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百七十四番) 是ハ勸業債券云々デゴザイマセウガ、是ハ重大問題デスカラ、十八名ノ特別委員ヲ、議長指名ニ願ヒマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 十八名ノ議長指名ノ委員ニ付託スルコトニ御異議ガナケレバ、右ノ如ク決定致シマス、第三十七ノ日程ニ移リマス、議案朗讀ハ省略致シマス

第三十七 明治三十六年勅令第二百九十一號(承諾ヲ求ムル件)

(政府提出)

勅令第二百九十一號

第一條 軍備補充ニ要スル經費支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲ爲シ特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及國庫債券ヲ發行スルコトヲ得

第二條 京釜鐵道株式會社ノ線路工事速成ニ必要ナル資金ノ調達ニ便宜ヲ

與フル爲政府ハ同會社ノ發行スル債券ニ對シ元利什拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

前項ニ依リ保證スヘキ債券ハ額面一千萬圓ヲ限リ其ノ利子ハ一箇年六分以下トシ其ノ元金ハ三箇年据置爾後五箇年以内ニ償還スヘキモノトス

第三條 京釜鐵道株式會社ニ於テ工事ヲ速成スル爲特ニ要スヘキ費用ノ補償トシテ政府ハ同會社ニ對シ百七十五萬圓ヲ補助スルコトヲ得但シ已ムヲ得サル事由ニ依リ其ノ金額ヲ以テ本項ノ費用ヲ償フコト能ハサル場合ヲ生シタルトキハ仍四十五萬圓以内ヲ補助スルコトヲ得

前項補助金ヲ以テ補償スヘキ費用ノ支拂ニ關シテハ特ニ詳密ナル監督規程ヲ設クルモノトス

第一項ニ依リ補助スヘキ百七十五萬圓ノ財源ニ充ツル爲政府ハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

第四條 第一條及第三條ノ場合ニ於テ一時借入金又ハ國庫債券ニ附スヘキ利子ハ一箇年六分以下トシ償還期限ハ一時借入金ニ在リテハ二箇年以内、國庫債券ニ在リテハ五箇年以内トス

國庫債券ニ關シテハ前項ニ規定スルモノノ外整理公債條例ヲ適用ス

○議長(松田正久君) 御質問ガナケレバ第三十八ノ日程ニ移リマス

第三十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百七十四番) 是ハ第一ノ日程ノ委員ニ託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(松田正久君) 第一ノ日程ノ委員ニ付託スルコトニ、御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 然ラハ第一ノ委員ニ付託スルコトニ決定致シマス、第三十九ノ日程ニ移リマス、議案ノ朗讀ハ省略シマス

第三十九 防禦海面令(承諾ヲ求ムル件)(政府提出)

勅令第十一號

防禦海面令

第一條 海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ區域ヲ限リテ本令ニ依ル防禦海面ヲ指定スルコトヲ得其ノ指定及之カ解除ハ海軍大臣之ヲ告示ス

第二條 緊急ノ必要アルトキハ鎮守府司令長官、要港部司令官ニ於テ前條ノ指定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ指定及之カ解除ハ鎮守府司令長官、要港部司令官之ヲ告示ス

第三條 防禦海面ニ於テハ日没ヨリ日出迄陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第四條 防禦海面ニ屬スル軍港及要港ノ區域内ニ於テハ陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第五條 防禦海面ヲ出入若ハ通航シ又ハ之ニ碇泊スル船舶ハ其ノ一切ノ行動ニ付所管鎮守府司令長官、要港部司令官ノ指示ニ遵フヘシ

第六條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ必要ト認ムルトキハ防禦海面ニ於ケル漁獵、採藻其ノ他軍事上障害トナルヘキ行爲ヲ禁止シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ適當ト認メタル船舶ニ對シ特ニ本令ノ禁止又ハ制限ノ全部又ハ一部ヲ解クコトヲ得

第八條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違背シタル船舶ニ對シテハ航路ヲ指定シテ防禦海面外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ遵ハサルモノニ對シテハ必要ニ應シ兵力ヲ用ウルコトヲ得

第九條 第三條乃至第五條ノ規定ニ違背シタルトキハ船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執レル者ヲ一年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第六條ノ禁止又ハ制限ニ違背シタル者ハ六月以下ノ重禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 御質問ガナケレバ第四十ノ日程ニ移リマス

第四十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百七十四番) 是ハ九名ノ特別委員ヲ願ヒマス

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 九名ノ議長指名ノ委員ニ付託スルコトニ、御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 然ラハ右ノ如ク決定致シマス

○恆松隆慶君(百七十四番) 四十一ヨリ四十四マデハ、一括トシテ第一ノ委員ニ託セラレンコトヲ望ミマス

(贊成々々ノ聲起ル)

第四十一 明治三十七年勅令第十九號(承諾ヲ求ムル件)(政府提出)

勅令第十九號

第一條 軍事郵便ノ取扱ヲ開始シタル場合ニ於テハ左ニ掲グルモノヲ軍事郵便物ト爲スコトヲ得

一 戰時又ハ事變ニ際シ戰地若ハ之ニ准スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊軍艦、水雷艇、軍需、軍人又ハ軍屬ヨリ發スル郵便物

二 戰時又ハ事變ニ際シ戰地又ハ之ニ准スヘキ地ニ在ル者ニシテ當該軍衙ノ許可ヲ得タル者ヨリ發スル郵便物

三 前二號ニ掲グル者ニ宛テ發スル郵便物

第二條 前條第一號及第二號ニ依ル軍事郵便物ハ其ノ料金ヲ免除ス

第三條 第一條第三號ニ依ル軍事郵便物ハ料金完納ノモノニ限ル其ノ料金未納又ハ不足ノモノハ差出人ニ還付シ不納額ノ二倍ヲ徴收ス

第四條 軍事郵便物ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五條 軍事郵便物取扱ニ關スル損害賠償ハ命令ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第六條 條約ニ依リテ取扱フ郵便物ニハ第二條乃至第五條ヲ適用セス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第六十七號ハ之ヲ廢止ス

第四十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第四十三 臨時事件費豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(政府提出)

第四十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(松田正久君) 恆松君ノ動議ノ如ク、日程ノ四十一ト四十三ハ、第一ノ委員ニ付託スルコトニ、御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 然ラバ恆松君ノ動議ノ如ク決定ヲ致シマス

○恆松隆慶君(百七十四番) 四十五ト四十六ハ、同一ノ決議案デゴザイマスカラ、是ハ一括トシテ九名ノ特別委員ニ、直チニ付サレシコトヲ望ミマス

(「贊成々々」ノ聲起ル)

第四十五 決議案(福島宜三君外三名提出)

帝國ノ一タヒ露國ト干戈相見ルヤ我カ艦隊ノ向フ所連戰連捷敵勢日ニ挫ケ國威方ニ揚ル是レ

叙聖文武天皇陛下ノ御稜威ニ依ルト雖抑々亦將士諸君ノ忠君愛國ノ熱誠ニ因ルニアラスムハアラス衆議院ハ茲ニ感謝ノ意ヲ表彰ス

第四十六 決議案(原敬君外二名提出)

我カ勇烈猛銳ナル帝國海軍カ嚮フ所克捷ヲ奏シテ敵國ヲ震懾シ皇威ヲ輝耀シ忽ニシテ海上ヲ攘掃スルノ殊勳ヲ樹テタルハ國民ノ深ク感荷スル所ナリ衆議院ハ茲ニ之ヲ顯明シテ其ノ誠悃ノ意ヲ表ス

○議長(松田正久君) 第四十五第四十六ノ日程ハ、恆松君ノ動議ノ如ク、同一ノ委員ニ付託スルコトニ決定シテ、御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 然ラバ恆松君ノ動議ノ如ク、同一ノ委員ニ付託スルコトニ決シマス

○神藤才一君(六十七番) 御閑ノヤウデスカラ、チヨット私ハ述ベタイノデアル、御許シニナリマセヌカ

○議長(松田正久君) 今ハイケマセヌ

○神藤才一君(六十七番) 言論ヲアナタハ束縛ナサイマスカ

○議長(松田正久君) 今報告スル宣告ヲシテ居ル

○神藤才一君(六十七番) ツレデヤ其後ト述ベマセウ、甚ダ怪シカラヌ、此際ノコトダカラ十分ニ述ベナケレバナラヌコトガアル、今回ノ議會ハ言論ヲ束縛ナサイマスカ、甚ダ怪シカラヌコトデアル、譯ガ分ラヌ

○議長(松田正久君) 諸君、今委員ノ氏名ヲ御報告致スコトヲ申シマシタガ、今清書中デアッデ、少シ間ニ合ハヌト云フコトデアリマスカラ、公報ヲ以テ御通知ヲスルコトニ致シマス

次回ノ議事日程ハ、公報ヲ以テ御通知ヲスルコトニ致シマス、今日ハ是ニテ散會ヲ致シマス

午後二時三十七分散會

衆議院議事速記録第一號正誤

頁段	行	誤	正
三上	四	「木村半兵衛君」	下ニ「川島瀧藏
三上	一	榮治	榮次
同	同	下五	治左衛門
同	同	一七	松之助
同	同	月數	日數
同	同	日數	次左衛門
同	同	日數	松之輔